

2024 年度
自己点検評価年次報告書
【短期大学部】

目白大学短期大学部

部門別「自己点検評価年次報告書」の目的

目白大学・目白大学短期大学部内部質保証委員会

本学の内部質保証は、学長のリーダーシップのもと、大学の理念や方針に従い、現在の教育、研究、管理運営、社会貢献などの活動について、自らが現状を振り返り、向上と健全化を目指すために、ひたむきに改善を継続するプロセスが重要だと考えます。

その目的を果たすために、年度ごとの振り返りを行い、PDCAサイクルを用いた「報告書」で可視化することで、各教職員や各学科等の現在地や問題点の気づき、改善、あるいは維持のプロセスを確認し、本学の目標の再確認を行います。

この『部門別自己点検評価年次報告書』は、本学の教育活動の主軸である各学部、学科と附属施設及び委員会・センターの自己点検・自己評価です。各部門での教育の改革・改善の振り返りや次年度目標といった改善プロセスを大学内外に公開・共有することで、向上心と改革に前向きな姿勢を持続させ、教育の質の向上と健全化に取り組みます。

目 次

凡 例	1
短 期 大 学 部	3
専門科目アセスメント・ポリシー	21
各 種 委 員 会	29

凡 例

2025 年 5 月 1 日

本報告書に記載する項目の定義並びに数値の算出方法は以下の通りとします。

- 学生数 …… 正規課程所属の在学生。研究生や科目等履修生は含まない。
(大学院・大学・短大)
- 留学生数 …… 上記「学生数」の中の留学生数の内訳。研究生や科目等履修生は含まない。
(同上)
- 専任教員数 …… 大学学部と短大各学科における所属でカウントするほか、大学院に所属する教員はその専攻でも専任教員として、研究所に所属する教員はその研究所でも研究員としてカウントする。
(本学では人事取扱い上、全ての大学教員は学部または短大のみに専属し、大学院は当該研究科所属であっても併任扱いとなっているが、本報告書で全ての大学院教員をカウントしないことは実態から乖離し、本報告書の趣旨にそぐわないため)
- 授業科目数 …… その学期に設定されている授業科目の数。
- ・ 学則に記載されている専門教育科目（学部共通科目を含む）、及び学科別開講の共通科目を基準とする。ただし、履修登録前に閉講が確定している（隔年開講・教員急病など）科目はカウントしない。
 - ・ 1つの授業に複数のコマが設定されていても1科目と数える。
 - ・ 履修学生ゼロによる閉講科目は1科目と数える。
 - ・ 新カリキュラム・旧カリキュラムで科目名が変わるが同じコマで実施している場合は2科目・1コマでカウントする。
 - ・ 「臨地研修」など、開講年度・学期の履修登録期間（閉講講義確定）以後に、学生による履修登録によらず開講が確定する科目は、実績に基づき開講された科目数をカウントする。
 - ・ 学外実習科目・卒業研究・留学期間の振替対応科目・臨地研修は1科目としてカウントするが、コマ数はカウントしない（学内で実習報告の授業等を行うことがあっても同様）。
 - ・ 再履修用授業を別途に実施している場合は、同一科目名であれば本体の授業と別扱いせず、コマ数のみカウントする。
 - ・ 通年実施の科目、及び卒業研究や臨地研修など学期ごとに完結する実態のない科目は「通年／その他」に分類して数える。
 - ・ 同一科目を複数の学科の学生と一緒に履修する形態で実施している場合は、それぞれの学科に全コマ数を加算する（全学科の合計コマ数が実態より多くなる）。
 - ・ 学部共通の専門教育科目は科目数・コマ数ともに各学部所属学科に単純加算する（全学科の合計科目数・コマ数が実態より多くなる）。
- 開講総コマ数 …… その学期に実際に開講（≠実施）されているコマ数の合計。
- ・ 学則に記載されている専門教育科目（学部共通科目を含む）、及び学科別開講の共通科目を基準とする。
 - ・ 1つの授業に複数設定されているコマは別々に数える。
 - ・ 開講したが結果的に履修学生が開講基準以下で実施しない場合も、コマ

		としてカウントする。
		・ 8 回授業等の場合は教務課のコマ数換算方法に準拠する。 ・ 非常勤講師の担当コマ数については実績に従い算出し、小数点第 2 位で四捨五入する。
○進路状況	……	年度末で確定した、卒業生の進路状況。 ・ 就職は正規雇用または非正規雇用（契約社員（1 年以上または 1 年未満）で就職した卒業生、進学は大学院、大学、専門学校、留学が確定した卒業生、その他はアルバイト、家事手伝い、結婚、資格取得準備中、進学準備中、留学準備中、公務員試験準備中、科目等履修生、研究生、聴講生の卒業生とする。
○論文数	……	シート提出組織（学科）に所属する 1 名以上の構成員が執筆した件数の合計。 ・ 複数の構成員が共同執筆していた場合、その学科で 1 件と数える（1 件の共同執筆論文について構成員の人数分だけ件数がプラスされることはない）。 ・ 他の学科教員が共同執筆者に含まれていた場合、それぞれの学科で 1 件と数える（この結果、全学科の件数合計は実際の論文件数より多くなる可能性がある）。
○学会発表件数	……	シート提出組織（学科）に所属する 1 名以上の構成員が発表した件数の合計。 ・ 複数の構成員が共同発表していた場合、その学科で 1 件と数える（1 件の共同発表について構成員の人数分だけ件数がプラスされることはない）。 ・ 他の学科教員が共同発表者に含まれていた場合、それぞれの学科で 1 件と数える（この結果、全学科の件数合計は実際の発表件数より多くなる可能性がある）。
○科研費助成金	……	シート提出組織（学科）に所属する 1 名以上の構成員が獲得した件数と金額の合計。 ・ 研究代表者のみカウント（2 研究課題を採択されているものは、2 とカウント） ・ 分担金配分前の総配分額（直接経費・間接経費の合計）を記載。 ・ 延長課題（当該年度配分なし）は含まない。 ・ 年度途中での退職者分も含む。 ・ 厚生労働省科研費も含む。
○特別研究費	……	シート提出組織（学科）に所属する 1 名以上の構成員が獲得した件数と金額の合計。 （教育研究環境整備助成は研究内容に着目するのではなく当該年度の新任者の研究環境整備のために支給されるものなので、本欄では除外する。）
○他 学 科 等 所 属 専任教員数	……	授業科目数にカウントした科目を担当する他学科所属の専任教員数。

以上

短期大学部

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価	シート4 (短大学長・学部長・研究科長)	評価対象年度	2024年度(令和6年度)
カテゴリー	教育課程(総括)		
学部名・研究科名	短期大学部		
記入者氏名(役職)	山田 隆文(学長)		

(1) 特筆すべき事項

【令和6年度 私立大学等経常費補助金に係る「少子化時代を支える 新たな私立大学等の経営改革支援」】

◎2024年度に「少子化時代をキ拉里と光る教育力で乗り越える、私立大学等戦略的経営改革支援」に申請し、「首都圏型地域協創コミュニティカレッジへのリイマジニング」として採択を受けた。

補助期間は2024年度～2028年度までの5年間。採択は45校／110校、短期大学としては13校、都内では新渡戸文化短期大学と2校のみ。

- ① 入学定員を190名から170名、収容定員を440名から400名へ変更する。
製菓学科は、55名を50名、ビジネス社会学科は、75名を60名とする。
- ② 各学科の取組を計画した。
・製菓学科:留学生の入学可能性を探る。
・ビジネス社会学科:新宿区との地域連携による MeCOT(仮称:ミーコト)の始動する。
・歯科衛生学科:社会人受け入れ可能性を探る、新宿区健康課・新宿歯科医師会との連携を強化する。

【教育(学生指導を含む)】

- ① 第五次中期目標・中期計画の初年度であり、「育てて送り出す」から学生主体の「育って羽ばたく」へのパラダイムシフト、教員の意識改革に取り組んだ。
- ② 「目白大学短期大学部特待生奨学金制度」は、前年との50名より11名多い61名が受験し15名合格、優秀な学生を確保できた。
製菓学科6名、ビジネス社会学科5名、歯科衛生学科4名。
- ③ メジプロ(e-Learning)を用いた入学前教育は、ベーシックコースは100%の実施率であった。
確認テストによる効果測定を2回実施し、エンロールメント・マネジメントの一環として基礎学力とGPAを連動して把握することで教育に反映した。
入学後のステップアップコースは製菓学科・ビジネス社会学科ではほぼ100%、歯科衛生学科は85%となった。
- ④ インターンシップ(製菓学科・ビジネス社会学科)参加者数は昨年の70%弱(51名から35名)に減少した。
- ⑤ ティプロマ・ポリシーに基づく「卒業における学修成果アセスメントテスト基準」による学修成果確認試験は、3学科全学生が合格をした。
- ⑥ 国家資格は製菓学科では28名、歯科衛生学科では49名(既卒2名を含む)が合格をした。
その他の資格取得は種別により増減があるが、資格取得奨励金の授与者は昨年より倍以上増加(45名から97名)しているものの、ピーク時(2021年度163名)の60%にとどまっている。
- ⑦ 就職支援部において全学生に面談を実施した。内定率は100%(求職者に対する)である。
特に歯科衛生学科では、7名が実習先歯科医院に就職するケースが増加している。
- ⑧ 大学への編入は6名(学内4名、学外2名)で半減した。
- ⑨ 昨年に比べて休・退学者が増加(8名から11名)している。
入学試験に倍率が出にくく、通信制高校、大学入学資格検定等の入学者も増加しており、入学時のミスマッチングがあることも否めない。
メンタル面の問題による休・退学が多く、また、出席率の低い学生、GPAの極端に低い学生、再履修の多い学生などの予備軍も増加傾向にある。

【研 究】

- ① 短期大学部独自で以下のようなFDを実施した。
・教授会終了後に研究発表会を実施し、持ち回りで各教員の研究テーマ等のプレゼンテーションを行った。
・研究交流会は「第5次中期計画中期目標短期大学部会」学習成果を定める」をワークショップ形式で2回実施した。(本年度は外来講師なし)
・教員相互授業参観は春秋2回(1回は他学科の授業)実施し、100%の実施率であり、教員相互のピアレビューにより教育の向上を目指した。
- ② 「学生による授業評価アンケート」には、各教員が改善点をフィードバック、積極的にスキルアップを行っている。
結果は、教員のコメントを追記し、図書館に配架し公開をしている。
- ③ 研究紀要への発表数は8編とやや回復した。
- ④ 外部資金の獲得は、科学研究費に3名が応募し1名が採択された。

【管理運営】

- ① 私立大学等経常費補助金採択により、入学定員の変更を行うことで、学則、卒業認定・学位授与等の方針等の改革準備を開始した。
- ② 会議は対面とZoom開催を併用し、情報共有は効率的に実施されている。
- ③ 「外部評価委員会」を開催し、本学自己点検評価に対する客観的な意見を得られた。
- ④ 2021年度より実施している「高大連携のための懇談会」をZoomによる会議方式から、対面の授業参観の形式で2回開催した。
就職先「企業との懇談会」はZoomで開催し、ステークホルダーとの重要な意見交換を行った。
- ⑤ 教員の教育力の向上と、確保に努める。
教員の定年・退職が続き、シームレスな教員の確保に努めているが、歯科衛生学科では欠員が生じている。
- ⑥ 入学定員の確保に努める。
2024年度入学生は、156名(入学定員の82.1%)、収容定員は374名(収容定員の85.0%)と前年度を下回った。
令和6(2024)年度私立大学・短期大学等 入学志願動向(日本私立学校振興・共済事業団)によれば、100%以上の入学生確保校は8.5%である。
また、私立短期大学は、2024年度に5校が閉校、2027年度までに45校が募集停止、そのほか学科閉鎖も増加している。
うち、保育系が45校、栄養系が19校(学科閉鎖は+2校)、生活科学系が14校、ビジネス系が6校となっている。
栄養系の不人気の影響もあり、特に、製菓学科の入学者が昨年の50名(100%)から33名(66%)へと急激な落ち込み、次年度が懸念される。
2025年度入試では、173名(91.1%:製菓学科37名67.3%、ビジネス社会学科76名101.3%、歯科衛生学科60名100%)まで回復した。
私立大学・短期大学等 入学志願動向に照らし合わせると、入学生91.9%確保は上位14.5%には位置している。

【社会貢献】

- ① 公開講座は校友会、中井町会等との地域連携で広報を実施した。参加者は学科ごとに参加者数に差があり、テーマによっては伸び悩んだ。
ターゲットの絞り込み、広報の方法等の検討が必要である。
- ② 地域連携を促進している。
・ビジネス社会学科は新宿区「大学等の連携による商店街支援事業」として西落合旭通り商店街との地域連携を行った。
・製菓学科は、包括連携先の米屋(株)との連携を再開した。
・歯科衛生学科は、新型コロナの影響で延期していた、新宿区健康部との包括連携による「保育園・幼稚園等歯科健康教室」、目白研心中・高等学校において歯科保健指導の実習を実施できた。

(2) 今後の課題

【令和6年度 私立大学等経常費補助金に係る「少子化時代を支える 新たな私立大学等の経営改革支援」】

- ① 2026年度実施に向けて、学則、卒業認定・学位授与等の方針等の整備・改革を早急に行う。
- ② 2026年度実施に向けて、各学科方針に則り、教育課程の改革を実施する。

【教育(学生指導を含む)】

- ① 教員の教育力の資質向上を目指し、学生主体の教育へシフトし、「育てて送り出す」を体现するための情報共有と、若手の育成を行う。
- ② 「目白大学短期大学部特待生奨学金制度」の合格者の入学後の成績等の効果測定を行い、試験制度の見直しと、より優秀な志願者の確保を継続する。
- ③ メジプロ(e-ラーニング)等の効果測定を総合的に分析する。
エンロールメント・マネジメントの一環として、支援の必要な学生の早期発見・早期の修学支援体制を確立する。
特に、入学時のミスマッチングを防ぐことによる休・退学の減少に努める。
また、入学後のステップアップコースへ100%の誘導する。
- ④ インターンシップ先のさらなる開拓と連携強化(製菓学科・ビジネス社会学科)。
臨床・臨地実習先の開拓(歯科衛生学科)をさらに図る。
- ⑤ 学修成果の明文化、各学科のVisionを元にしたディプロマ・ポリシーを見直し、学生の主体的な学びによる学修成果の可視化を継続し、2025年度の完成を目指す。
- ⑥ 国家資格(製菓衛生師、歯科衛生士)の合格率向上のため、教育課程の改革により、教育・学生支援体制を整備する。
また、種々の資格取得へサポートと、資格取得奨励金の再検討を行う。
- ⑦ 学生のニーズと就職環境の激変に対応するため、入学早期よりキャリア意識を効果的に高められるような支援を実施する。
- ⑧ 目白大学への円滑な編入体制が構築されたことで、早期の希望者の把握とオリエンテーションなど、志願者増加に連動する体勢を整える。

【研究】

- ① 短期大学独自のFDをさらに充実させ、ワークショップ形式などをさらに導入し、教員の教育力・研究力向上、研究活動活性化のために、教員の自己研鑽、教育力向上のための支援体制を構築する。
- ② 「学生による授業評価アンケート」の回答率の向上と、教員の効果的な授業力の向上に繋げる。
- ③ 論文執筆に対しての相談・指導体制を強化し、完成に導くためのサポートを行い、紀要を含む研究活動成果の公表を推進する。
- ④ 外部資金等の獲得のための研究支援体制を構築する。

【管理運営】

- ① 私立大学等経常費補助金取得により、学則、卒業認定・学位授与等の方針、履修規程、特待生奨学金の見直し等の整備・改革を行う。
2025年度～2027年度の3年間を対象に2028年度に認証評価を受審するため、同時に準備を進める。
- ② 学科を超えた情報の共有を徹底し、PDCAを意識しての運営を徹底する。
各学科の将来構想を元に、ディプロマポリシーに即した教育を実現するためのカリキュラム改革など、計画的な運営を目指す。
- ③ 外部評価委員会の意見を教育に反映する。
- ④ ステークホルダーの懇談会を効果的に開催する。
高大連携のための懇談会は、対面による授業参観形式に変更し、効果的であったことから、高校への広報方法を検討する。
就職先企業の懇談会は、現在Zoom開催であるが、高校との懇談会を習い、対面方式も検討する。
- ⑤ 教員の教育力向上と確保に努める。
教員のワークエンゲージメント、ワークバランスの構築のために、学科を超えて教員間の懇談の機会を増やすなど、意思疎通の円滑化を図る。
教員の退職が続くことから、各学科の教育方針に則って教員の採用計画を明確にし、教員の昇格や、早期の公募を計る。
- ⑥ 2025年度入試はやや回復傾向にあるが、2026年度に向けて学生確保に努める。
オープンキャンパスの開催方法を精査し、改善する。
来校者のフォローアップを充実させる。
オープンキャンパス来校者以外の入学者も一定数みられることから、一般入試、センター利用入試に結びつける広報を検討する。
高校訪問等、高校教員への存在感を向上させ、また、志願者の情報の早期把握と、情報の共有に努める。

【社会貢献】

- ① 公開講座の実施内容・実施時期・ターゲットを検討し、より参加者増加のための広報・地域連携を促進する。
- ② 大学の魅力の発信力アップのため、教員の研究成果の公開や、産学官連携のために地域連携・研究推進センターと協力し、情報公開を強化する。
- ③ 学生の地域貢献を推進する仕掛けを作り積極的に進める。
歯科衛生学科は、目白研心中・高等学校、新宿区保健課、新宿歯科医師会との連携により学校歯科検診を実施する。

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価			評価シート1		学科名		製菓学科		
評価対象年度					2024年度(令和6年度)				
入 学 定 員			55 名	設置基準上の 必要教員数	専任教員数	5 名			
収 容 定 員			110 名		教授内数	2 名			
学 生 数 (5/1現在) ※含留学生	1年	33 名	専 任 教 員 数 (5/1現在)			特任内数	博士内数		
	2年	50 名		教 授	2 名	0 名	0 名		
	3年	0 名		准 教 授	1 名	0 名	0 名		
	4年	0 名		専任講師	2 名	0 名	0 名		
	計	83 名		助 教	0 名	0 名	0 名		
				計	5 名	0 名	0 名		
入 学 定 員 充 足 率			60 %	助 手	3 名	0 名	0 名		
収 容 定 員 充 足 率			75 %	他学科等所属専任教員数(5/1現在)		1 名			
休 学 者 数 (年度末集計)			1 名	非常勤講師数(5/1現在)		8 名			
退学・除籍者数(年度末集計)			2 名	授 業 科 目 数	春学期	24 コマ			
卒 業 生 数			48 名		秋学期	16 コマ			
標準修業年限内卒業率(2023年度入学)			98 %		通年/その他	0 コマ			
進 路 状 況 (年度末集計)	就 職	43 名	開 講 総 コ マ 数	春学期	66 コマ	内非常勤 担当	16 コマ		
	進 学	3 名		秋学期	51 コマ		11 コマ		
	その他	2 名		通年/その他	0 コマ		0 コマ		
	計	48 名		科学研究費等補助金 ※当該年度配分額			0 件	0 千円	
就職率(就職者数/卒業生-進学者)			96 %	特別研究費(除教育研究環境整備助成) ※当該年度配分額		0 件	0 千円		
社会貢献関連項目		件数	具 体 例						
産学連携(企業・団体)		1 件	2025年度入学者を対象とした企業見学と体験実習を、包括連携先である米屋株式会社様と企画中						
地域連携(自治体・団体)		7 件	体験実習(製菓フェス含む)は6回実施した。 「公開講座」は、製パン制作を実施した(参加者20名)						
所属学会、団体、企業等 ※役員等名も記載		4 件	東京和菓子協会本部理事(監査役) 一般社団法人 日本食育学会 一般社団法人東京都洋菓子協会 日本栄養改善学会						
その他社会貢献事業 (高大連携など)		3 件	・嘉南薬理大学(台湾)との体験実習交流会実施(5月16日6名) ・トキワ松学園高校への出張授業実施(6月17日8名) ・トキワ松学園中学生が来校し体験実習を実施(7月25日13名)						

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価	シート2 (学科長記入)	評価対象年度	2024年度(令和6年度)
カテゴリー	教育課程		
学部・学科	製菓学科		
記入者氏名(役職)	伊藤 浩正(学科長)		

項目	2023年度 自己点検評価
教育 (学生指導含む)	課題と2024年度の改善目標(Action)
	① 実習室でのマスク着用試食以外の食事の禁止、更衣室は更衣のみ速やかに使用するなど使用方法について徹底を図る。
	② 引き続き退学者及び休学者を最小限に抑える。
	③ 出題配分及び配点の割合が変更になっていた所以对策を講じる。
	④ 感染症が終息していないので、引き続き学内での感染に注意を図る。
教育 (学生指導含む)	⑤ 就職を希望している学生に対し、早期より声がけをし就職活動を促す。
	改善に向けての具体的な計画(Plan)
	① 実習室、更衣室の使用方法について徹底を図る。事前事後学習用のGoogleClassroom、SchooSwingは引き続き活用する。
	② 欠席過多、体調不良の学生は、担任が学生もしくは保護者と連絡を取り現状を把握し学科で情報共有し、早期に対策を講じる。
	③ 本年度の出題傾向の分析を講じる。
教育 (学生指導含む)	④ コロナ禍以前の授業形態に戻すが、衛生面の観点からもマスク着用は引き続き遂行する。
	⑤ 学生の就職活動が学科教員で共有できるよう毎月の会議で報告、共有する。

項目	2024年度 自己点検評価 ※箇条書きにて記入
教育 (学生指導含む)	1. 取組状況(Do)
	① 実習室でのマスク着用は科目担当者により指導にばらつきがあったため、新入生オリエンテーションで「実習室使用に関するルール」資料を配布して注意事項の指導を行った。
	② 1年次にクラス担任による面談を実施したほか、助手・クラス担任を中心に年間を通して学生の様子を観察し、学科会議にて情報共有を行った。
	③ 製菓衛生師試験と同様の模擬試験形式での対策講座を実施した。
	④ 実習授業はすべて不織布マスクを着用して実施した。
教育 (学生指導含む)	⑤ 就職活動報告は毎月初旬に就活状況を紙面で提出することとし、実施した。
	2. 点検・評価(Check)
	① 指導不足による実習室および更衣室での事故、事件は発生しなかった。
	② 退学者1名、休学による卒業延期者が1名であった。
	③ 製菓衛生師試験は28名が受験し28名全員が合格した。合格率は100%であった。
	④ 学科内での感染症の流行は確認されなかった。
教育 (学生指導含む)	⑤ 就活状況の報告書は、毎月提出率を集計しているが、平均は概ね89.1%程度となっている。
	3. 課題と次年度の改善目標(Action)
	① 実習室でのマスク着用試食以外の食事の禁止、更衣室は更衣のみ速やかに使用するなど引き続き使用方法について徹底を図る。
	② 引き続き退学者及び休学者を最小限に抑える。
	③ 製菓衛生師試験に対するモチベーションが下がらないよう士気向上に努める。
	④ コロナ感染症はほぼ終息しているが、他の感染症及び衛生面を考え、引き続き学内での感染に注意を図る。
教育 (学生指導含む)	⑤ 就職を希望している学生に対しては、就活状況報告書をもとに早期より声がけをし、必要であれば面談をして就職活動を促す。
	4. 改善に向けての具体的な計画(Plan)
	① 実習室、更衣室の使用方法について徹底を図る。事前事後学習用のGoogleClassroom、SchooSwingは引き続き活用する。
	② 欠席過多、体調不良の学生は、担任が学生もしくは保護者と連絡を取り現状を把握し学科で情報共有し、早期に対策を講じる。
	③ 製菓衛生師試験直前講座は全員が出席するよう注意喚起する。
教育 (学生指導含む)	④ 衛生面の観点からもマスク着用は引き続き遂行する。
	⑤ 学生の就職活動が学科教員で共有できるよう毎月の学科会議で報告し、ドライブに就活状況を入力し共有する。

項目	2023年度 自己点検評価
研究	学生の就職活動が学科教員で共有できるように毎月の学科会議で報告し、ドライブに就活状況を入力し共有している。
	① 短大研究発表会に向けて発表の準備をする。
	② 出来る限り毎年1本は紀要を投稿するよう促し個別の面談の際意向を聴取し必要に応じて支援する。
	③ できる限り希望のゼミに配置させ、期日内で課題提出できるよう指導する。
	改善に向けての具体的な計画(Plan)
研究	① 滞りなく発表ができるよう、発表の準備をし、テーマが決められている場合は沿うよう準備をする。
	② 紀要の投稿が採択に結びつくよう本人の希望に応じて助言をする。
	③ 希望のゼミに配置させ、人数が偏らないよう配慮し期日内完了提出を目指す。

項目	2024年度 自己点検評価 ※箇条書きにて記入
研究	1. 取組状況 (Do)
	① 短大研究発表会は個別発表と任意のテーマを設けての発表がなされた。 ② 学科教員が短期大学部紀要に単著論文2本、共著論文1本を投稿した。 ③ 多少の人数調整はなされたが、最終的に全員が自身の選択でゼミを決定した。
	2. 点検・評価 (Check)
	① 担当発表者は滞りなく発表がなされた。 ② 学科教員による単著論文2本、共著論文1本が、査読の結果短期大学部紀要に採択された。 ③ 卒業年次生全員が、両学期とも期日内に卒業制作作品を提出した。
	3. 課題と次年度の改善目標 (Action)
研究	① 短大研究発表会に向けて発表の準備をする。 ② 出来る限り毎年1本は紀要を投稿するよう促し個別の面談の際意向を聴取し必要に応じて支援する。 ③ 引き続き、できる限り学生を希望のゼミに配置し、卒業年次生全員が両学期とも期日内に卒業制作作品を提出できるようにする。
	4. 改善に向けての具体的な計画 (Plan)
	① 短大研究発表会に向け滞りなく発表ができるよう、発表の準備をし、テーマが決められている場合は沿うよう準備をする。 ② 紀要の投稿が採択に結びつくよう本人の希望に応じて助言をする。 ③ 作品提出の期日を遵守させるため、技術だけでなく、製作スケジュールについても適宜指導を行う。

項目	2023年度 自己点検評価
管理運営	課題と2024年度の改善目標 (Action)
	① 感染症が完全に終息していない観点、衛生上の観点からもマスク着用で実施していく。 ② 引き続き3学科で協力し情報共有に努める。 ③ 次年度は専任教員の任期満了、更新が数名あるので早期の対応が必要である。 ④ 再度感染症の流行があった場合は必要に応じて保護者対応を講じる。 ⑤ オープンキャンパスは3学科共通より学科独自を重視することを念頭に構成が必要と思われる。
	改善に向けての具体的な計画 (Plan)
	① 感染症の状況を注視して、マスク着用は必須とする。 ② 学科長連絡会は定期及び必要に応じて臨時で開催し3学科協力する。 ③ 学科内人事計画について正副学長、学科内で協議し早期に任用申請を提出する。 ④ 感染症の状況を注視し、必要に応じた対応を検討する。 ⑤ オープンキャンパスは3学科共通より学科独自を重視し、学び体験に合わせるタイムスケジュールを組んだ。体験実習においては直近重複しないよう検討する。

項目	2024年度 自己点検評価 ※箇条書きにて記入
管理運営	1. 取組状況 (Do)
	① コロナ感染症はほぼ終息したものの、インフルエンザの流行や衛生上の観点からもマスク着用で実施していく。 ② 学科長連絡会は定期及び臨時で開催した。 ③ 次年度は専任教員の自己都合及び任期満了での退職、無期転換、任期延長での更新が数名あるので早期の対応が必要である。 ④ 実習授業はすべて不織布マスクを着用して実施し、ゼミやベーシックセミナー、キャリアデザイン授業で感染症の流行状況などを適宜指導した。 ⑤ 学び体験の内容やプログラムの時間配分、製菓フェスの実施など、学科独自の取り組みを増やし、専任教員一丸となって取り組んだ。
	2. 点検・評価 (Check)
	① コロナ感染症は授業を介しての罹患者はいなかった。衛生上の事故はなかった。 ② 学科長連絡会は定期及び必要に応じて臨時で開催し3学科協力のもと円滑に開催できた。 ③ 次年度より勤務の専任講師、助手の任用は完了した。無期転換、任期延長の教員に関しても無事完了した。 ④ 学科内での感染症の流行は確認されなかった。 ⑤ オープンキャンパスは重点を置いた8～9月、2～3月の参加者が増加し、受験者および次年度入学者は前年より4名増加した。
	3. 課題と次年度の改善目標 (Action)
管理運営	① 製菓学科では衛生上の観点から、実習時のマスク着用は必須としていく。 ② 学科長連絡会は、引き続き3学科で協力し情報共有に努める。 ③ 2025年度末で定年を迎える教員の後任に関しては、できるだけ早期に任用を申請し対応する。助手に関しては同年に複数人退職にならないように管理運営に当たる。 ④ 感染症及び体調不良者の実習参加に関しては、本人や保護者と連絡を取り適切に対応する。 ⑤ 次年度入学者は前年より4名増加したが、定員充足率は70%程度と大幅に不足しているため、定員充足率80%以上を目指す。
	4. 改善に向けての具体的な計画 (Plan)
	① 実習時にマスク着用を徹底する。 ② 学科長連絡会は定期及び必用に応じて臨時で開催し3学科協力する。 ③ 学科内人事計画について正副学長、学科内で協議し早期に任用申請を提出する。 ④ 実習授業はすべて不織布マスクを着用して実施し、ゼミやベーシックセミナー、キャリアデザイン授業で感染症や体調不良時の対応に関して指導する。 ⑤ 学び体験の内容やプログラムの時間配分、製菓フェスの実施など、学科独自の取り組みを継続する。ばらつきのあるInstagramの投稿を週1回程度安定して行う。

項目	2023年度 自己点検評価
社会貢献	課題と2024年度の改善目標 (Action)
	① 体験実習及びオープンキャンパスでの学び体験の内容をデモ見学から実際に実習する形に変える検討をする。 ② 個人店で連携できるかを検討する。
	改善に向けての具体的な計画 (Plan)
	① 幅広い学びになるよう体験実習、学び体験の内容を検討する。 ② 連携できる会社の規模や内容について検討する。

項目	2024年度 自己点検評価 ※箇条書きにて記入
社会貢献	1. 取組状況 (Do)
	① 学び体験の内容やプログラムの時間配分、製菓フェスの実施など、学科独自の取り組みを増やし、専任教員一丸となって取り組んだ。 ② 包括連携協定先である米屋株式会社で、千葉県在住で和菓子を志望する学生1名がインターンシップを実施した。また、7月に新任の人事総務担当者が来学くださったのをきっかけに、新たな取り組みとしてスタートアップセミナーでの企業見学の計画が進み、次年度4月8日に実施予定である。
	2. 点検・評価 (Check)
	① 重点を置いた8～9月、2～3月の参加者が増加し、受験者および次年度入学者は前年より4名増加した。 ② コロナで中断したままになっていた、包括連携協定先である米屋株式会社との連携活動を再開できた。
	3. 課題と次年度の改善目標 (Action)
	① 次年度入学者は前年より4名増加したが、定員充足率は70%程度と大幅に不足しているため、定員充足率80%以上を目指す。 ② 米屋株式会社との新企画である、スタートアップセミナーでの企業見学を実施する。また、インターンシップも継続して参加者を募集する。
	4. 改善に向けての具体的な計画 (Plan)
	① ばらつきのあるInstagramの投稿を週1回程度安定して行う。学科独自の取り組みを重視した新しい年間スケジュールを継続的に実施する。 ② 新入生オリエンテーションまでにスタートアップセミナーのタイムスケジュールを確定し、学科で共有する。

主要な国家資格・各種資格・検定結果 (専門科目アセスメント・ポリシー)		
資格・検定等名	結果 (受験者数・合格者数・合格率等)	評価
製菓衛生師	28名受験・28名合格・合格率100%	目標が合格率90%以上であったが、全員合格となり目標は達成した。
商業ラッピング検定3級	19名受験・15名合格・合格率78.9%	目標が受験者の50%以上合格であり、目標は達成した。

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価			評価シート1		学科名		ビジネス社会学科			
評価対象年度					2024年度(令和6年度)					
入学定員			75 名		設置基準上の 必要教員数	専任教員数	7 名			
収容定員			150 名			教授内数	3 名			
学 生 数 (5/1現在) ※含留学生	1年	76 名	専 任 教 員 数 (5/1現在)				特任内数	博士内数		
	2年	49 名		教 授	3 名	0 名	0 名			
	3年	0 名		准 教 授	0 名	0 名	0 名			
	4年	0 名		専任講師	5 名	0 名	2 名			
	計	125 名		助 教	1 名	0 名	0 名			
				計	9 名	0 名	2 名			
入学定員充足率			101 %		助 手	2 名	0 名	0 名		
収容定員充足率			83 %		他学科等所属専任教員数 (5/1現在)		0 名			
休学者数 (年度末集計)			4 名		非常勤講師数 (5/1現在)		17 名			
退学・除籍者数 (年度末集計)			4 名		授 業 科 目 数	春学期	22 コマ			
卒業生数			47 名			秋学期	33 コマ			
標準修業年限内卒業率(2023年度入学)			92 %			通年/その他	0 コマ			
進 路 状 況 (年度末集計)	就 職	40 名	開 講 総 コ マ 数	春学期	42 コマ	内非常勤 担当	12 コマ			
	進 学	3 名		秋学期	48 コマ		16.1 コマ			
	その他	4 名		通年/その他	0 コマ		0 コマ			
	計	47 名		科学研究費等補助金 ※当該年度配分額			0 件	0 千円		
就職率(就職者数/卒業生-進学者)			91 %		特別研究費(除教育研究環境整備助成) ※当該年度配分額		1 件	500 千円		
社会貢献関連項目		件数	具 体 例							
産学連携(企業・団体)		4 件	①公益社団法人日本ブライダル文化振興協会人材育成委員(コンテスト部会、ブライダル学校部会) ②公益社団法人日本ブライダル文化振興協会テキスト改訂委員 ③一般社団法人日本能率協会主催「ネクストリーダーズ」地域ファシリテーター ④教育現場や社会人団体における講演、企業研修							
地域連携(自治体・団体)		3 件	①新宿区「大学との連携による商店街支援事業」西落合旭通り商店会での活動 ②クリアソン新宿とのインターンシップ等での連携 ③NPO法人ブランディングポートとのインターンシップ等での連携							
所属学会、団体、企業等 ※役員等名も記載		11 件	①秘書サービス接遇教育学会 理事 ・秘書サービス接遇教育学会の全国大会は対面の開催となり、研究集録の発刊も通常通り行った。 ②日本インターンシップ学会 理事 ③日本インターンシップ学会 広報委員委員長 ④日本インターンシップ学会 東日本支部副支部長 ⑤実務技能検定協会 理事 ⑥日本ビジネス実務学会 常任理事、理事 ⑦日本ビジネス実務学会 研究推進委員会委員長 ⑧日本ビジネス実務学会 関東・東北ブロック研究会運営委員 ⑨実務技能検定協会 監修 ・ビジネス系検定の検定問題の校閲を行った。 ⑩公益社団法人日本ブライダル文化振興協会人材育成委員 ⑪一般社団法人日本能率協会主催「ネクストリーダーズ」地域ファシリテーター							
その他社会貢献事業 (高大連携など)		0 件								

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価	シート2 (学科長記入)	評価対象年度	2024年度(令和6年度)
カテゴリー	教育課程		
学部・学科	ビジネス社会学科		
記入者氏名(役職)	上岡 史郎(学科長)		

項目	2023年度 自己点検評価
教育(学生指導含む)	課題と2024年度の改善目標(Action)
	① 2023年度もモデル時間割の作成と履修指導、ベーシックセミナーでの履修登録の確認を行うことで、きめ細かい履修指導を行い、学生便覧を使ってカリキュラムツリーについての説明をベーシックセミナーを通して行うことができたが、学生便覧に掲載されていないカリキュラムマップや科目ナンバリングまでの説明を行うことができなかった。2024年度は第1回と第2回のベーシックセミナーを通して、カリキュラムマップや科目ナンバリングの説明も行っていきたい。
	② 学科会議後のFD委員会で、学科の学生動向を学科の教員全員で共有することで退学者減少を目指し、春学期については、ベーシックセミナー後に1年生の担任が毎週学生状況を報告する会議を行うなど、学生状況の把握に努めることが退学率の低減につながることができた。2024年度は新入生が大幅に増え、学力の格差が大きくなることがわかっているため、今まで以上に学生状況の把握が必要となることが考えられる。学習面でのフォロー体制に加えて、引き続きメンタル面や経済面で問題を抱える学生の把握と指導のため、教員間だけでなく、学生課との連携を深めていく。
	③ 学習面やメンタル面、経済的な問題を抱えている学生をフォローしていくためには、いままで以上に教員間や学生課との連携や保護者とのコミュニケーションが必要となってくる。クラス担任一人が学生と向き合うのではなく、学科全体で学生指導にあたっていく。
	④ 今後も増えることが予想される出席不良な学生やメンタル面、経済的な問題を抱えている学生をフォローしていくためにも、引き続き保護者への連絡などを密に取っていく。
	⑤ 学習意欲の低い学生に対して、どのようにアプローチをしていくかが課題である。教員間での授業参観なども生かしつつ、学生が学習意欲を高められる授業スタイルを研究していく。
	⑥ ビジネス社会学科は入学式後と保護者会で保護者と直接コミュニケーションをとる機会をとっている。今後も少しでも保護者の方々と直接会話がとれる保護者会への参加を増やしていく努力をしていく。そのためには保護者会については対面だけでなく、リモートも併用して、参加者を増やしていく努力を引き続き行っていく。
	⑦ メジプロについて期日より遅れてしまう学生がおり、そのような学生に対して、どのように指導をしていくかが今後の課題である。引き続き毎月の学科会議後の学科FD委員会で各クラスの進捗状況を把握しつつ、これらの学生についての学生指導の方法を検討していく。
	改善に向けての具体的な計画(Plan)
	① 学生個々に合わせた履修指導を行っていく。2024年度もモデル時間割の作成と履修指導、ベーシックセミナーでの履修登録の確認を行うことで、きめ細かい履修指導を行っていく。また、学生便覧を使ってカリキュラムツリーだけでなく、カリキュラムマップや科目ナンバリングの説明についてもベーシックセミナーを通して行っていく。
	② 学科会議後のFD委員会で、学科の学生動向を学科の教員全員で共有し退学者減少を目指す。また引き続き、メンタル面と経済面に問題を抱えている学生についての支援・指導を強化するため、春学期については、ベーシックセミナー後に1年生の担任が毎週学生状況を報告する会議を行うなど、学生状況の把握に努めることが退学率の低減につなげていく。メンタル面は学生相談室と経済面は学生課との連携も取りながら学生の状況を把握するように努めていく。
	③ 引き続き、1、2年ともに各学期ごとに目標設定シートと振り返りシートの作成し学生が自己の振り返りをシートに記入するだけでなく、1年生はクラス担任、2年生はゼミ担任が目標設定と振り返りのシートを個人面談等の学生指導に生かしていく。昨年度から試験的に導入した学科版エンrollmentマネジメントのシートを今年度も試験的に導入するようで、次年度以降、本格的な導入に向けて検討していく。
	④ 毎学期ごとの保護者への成績表配布と学科新聞の送付など、保護者への情報提供だけでなく、保護者会後の個人面談等や出席不良な学生の保護者への連絡など双方向でのコミュニケーションを取ることで保護者との連携を強めていく。
	⑤ 引き続き、秘書系授業や接遇マナー系授業などの実習や演習の科目を中心にアクティブラーニングを取り入れた授業を行っていく。アクティブラーニングなど学生が主体となって考えていく授業を増やすことで、学生が興味をもって授業に参加できる体制をこれからも作っていきたい。
	⑥ ビジネス社会学科は地方や遠方の保護者も多いため、保護者会を対面型の説明会と同時並行でリモートで説明会を行い、少しでも参加者を増やす努力を行っていく。次年度も対面とリモートの併用での保護者会を検討していく。
	⑦ 引き続きすべての学生が期日までにベーシックコースとステップアップコースを終了するように指導していく。そのために、引き続き毎月の学科会議後の学科FD委員会で各クラスの進捗状況を把握しつつ、これらの学生についての学生指導の方法を検討していく。

項目	2024年度 自己点検評価 ※箇条書きにて記入
1. 取組状況(Do)	① 学生個々に合わせた履修指導を行った。2024年度までは4つのフィールドの縛りがあるため、オリエンテーションでの履修指導やベーシックセミナーで履修登録の確認を行うことで、きめ細かい履修指導を行った。また、学生便覧を使ってカリキュラムツリーだけでなく、カリキュラムマップや科目ナンバリングの説明も行う予定であったが、これらについてはできなかった。
	② 学科会議後のFD委員会で、学科の学生動向を学科の教員全員で共有することができた。また引き続き、メンタル面と経済面に問題を抱えている学生についての支援・指導を強化するため、春学期については、ベーシックセミナー後に1年生の担任が毎週学生状況を報告する会議を行うなど、学生状況の把握に努めた。メンタル面は学生相談室と経済面は学生課との連携も取りながら学生の状況を把握するようにすることができた。
	③ 1、2年ともに各学期ごとに目標設定シートと振り返りシートの作成し学生が自己の振り返りをシートに記入し、1年生はクラス担任、2年生はゼミ担任が目標設定と振り返りのシートを個人面談等の学生指導を行った。昨年度から導入した学科版エンrollmentマネジメントのシートについては入力のみとなってしまった。
	④ 毎学期ごとの保護者への成績表配布と学科新聞の送付など、保護者への情報提供だけでなく、保護者会後の個人面談等や出席不良な学生の保護者への連絡など双方向でのコミュニケーションを取ることで保護者との連携を強めることができた。
	⑤ 秘書系授業や接遇マナー系授業などの実習や演習の科目を中心にアクティブラーニングを取り入れた授業を行うことができた。アクティブラーニングなど学生が主体となって考えていく授業を増やすことで、学生が興味をもって授業に参加できる体制を作ることができた。
	⑥ ビジネス社会学科は地方や遠方の保護者も多いため、昨年度に引き続き、保護者会を対面型の説明会と同時並行でリモートで説明会を行った。
	⑦ すべての学生が期日までにベーシックコースとステップアップコースを終了するように指導を行ったが、何人か達成できない学生がいた。

教育 (学生指導含む)	2. 点検・評価 (Check) ① 学生個々に合わせた履修指導を行っていきことができたことはよかった。2024年度までは大幅な学則が変更がないため、いくつかの新学期の改正点に合わせて履修指導を行い、またベーシックセミナーで履修登録の確認を行うことで、きめ細かい履修指導を行うことができた。学生便覧を使ってカリキュラムツリーだけでなく、カリキュラムマップや科目ナンバリングの説明についてはベーシックセミナーを通して行うことができなかったことが次年度の課題である。 ② 学科会議後のFD委員会で、学科の学生動向を学科の教員全員で共有し退学者減少を目指すことができたことはよかった。例年に引き続き、メンタル面と経済面に問題を抱えている学生についての支援・指導を強化するため、1年生の担任が毎週学生状況を報告する会議を行うなど、学生状況の把握に努めることが退学率の低減につなげていくことができたことはよかった。メンタル面は学生相談室と経済面は学生課との連携も取りながら学生の状況を把握することができたことはよかった。 ③ 例年に引き続き、1、2年ともに各学期ごとに目標設定シートと振り返りシートの作成し学生が自己の振り返りをシートに記入することができたことはよかった。また、1年生はクラス担任、2年生はゼミ担任が目標設定と振り返りのシートを個人面談等の学生指導に生かしていくこともできたことはよかった。昨年度から導入した学科版エンrollmentマネジメントのシートについては、十分に活用することはできなかった。 ④ 毎学期ごとの保護者への成績表配布と学科新聞の送付など、保護者への情報提供だけでなく、保護者会後の個人面談等や出席不良な学生の保護者への連絡などなるべく双方向でのコミュニケーションを取ることで保護者との連携を強めていくことができたことはよかった。 ⑤ 引き続き、秘書系授業や接遇マナー系授業などの実習や演習の科目を中心にアクティブラーニングを取り入れた授業を行っていきことができたことはよかった。またアクティブラーニングなど学生が主体となって考えていく授業を増やすことで、学生が興味をもって授業に参加できる体制を作ることができた。 ⑥ ビジネス社会学科は地方や遠方の保護者も多いが、保護者会を対面型の説明会と同時並行でリモートで説明会を行うことで、参加者を増やすことができた。 ⑦ すべての学生が期日までにベーシックコースとステップアップコースを終了するように指導を行ったが、何名か達成できない学生がいた。
	3. 課題と次年度の改善目標 (Action) ① 2024年度もモデル時間割の作成と履修指導、ベーシックセミナーでの履修登録の確認を行うことで、きめ細かい履修指導を行い、学生便覧を使ってカリキュラムツリーについての説明をベーシックセミナーを通して行うことができたが、学生便覧に掲載されていないカリキュラムマップや科目ナンバリングまでの説明を行うことができなかった。2025年度は第1回と第2回のベーシックセミナーを通して、カリキュラムマップや科目ナンバリングの説明も行っていきたい。 ② 2024年度も学科会議後のFD委員会で、学科の学生動向を学科の教員全員で共有することで退学者減少を目指し、春学期については、ベーシックセミナー後に1年生の担任が毎週学生状況を報告する会議を行うなど、学生状況の把握に努めることが退学率の低減につなげることができた。2025年度も昨年度に引き続き新入生が定員を超える人数が在学する。新入生は学力の格差が大きくなることがわかっているため、今まで以上に学生状況の把握が必要となることが考えられる。学習面でのフォロー体制に加えて、引き続きメンタル面や経済面で問題を抱える学生の把握と指導のため、教員間だけでなく、学生課との連携を深めていく。 ③ 学習面やメンタル面、経済的な問題を抱えている学生をフォローしていくためには、いままでも以上に教員間や学生課との連携や保護者とのコミュニケーションが必要となってくる。クラス担任一人が学生と向き合うのではなく、学科全体で学生指導にあたっていく。 ④ 今後も増えることが予想される出席不良な学生やメンタル面、経済的な問題を抱えている学生をフォローしていくためにも、引き続き保護者への連絡などを密に取っていく。 ⑤ 学習意欲の低い学生に対して、どのようにアプローチをしていくかが課題である。毎月の学科会議後のFD委員会や毎週行われる担任会議などを通して、学生状況の把握に努める。また教員間での授業参観なども生かしつつ、学生が学習意欲を高められる授業スタイルを研究していく。 ⑥ ビジネス社会学科は例年入学式後と保護者会で保護者と直接コミュニケーションをとる機会をとっている。今後も少しでも保護者の方々と直接会話がとれる保護者会への参加を増やしていく努力をしていく。そのために保護者会については対面だけでなく、リモートも併用して、参加者を増やしていく努力を引き続き行っていく。 ⑦ メジプロについて期日より遅れてしまう学生があり、そのような学生に対して、どのように指導をしていくかが今後の課題となっている。引き続き毎月の学科会議後の学科FD委員会や毎週の担任会議等を通して、各クラスの進捗状況を把握しつつ、これらの学生についての学生指導の方法を検討していく。
	4. 改善に向けての具体的な計画 (Plan) ① 例年通り、学生個々に合わせた履修指導を行っていく。2025年度は学則が大きく変わるため、学生それぞれの希望に合わせた時間割の作成と履修指導、ベーシックセミナーでの履修登録の確認を行うことで、きめ細かい履修指導を行っていく。また、学生便覧を使ってカリキュラムツリーの説明だけでなく、例年の課題となっているカリキュラムマップや科目ナンバリングの説明についてもベーシックセミナーを通して行っていく。 ② 学科会議後のFD委員会で、学科の学生動向を学科の教員全員で共有し退学者減少を目指す。また引き続き、メンタル面と経済面に問題を抱えている学生についての支援・指導を強化するため、春学期については、ベーシックセミナー後に1年生の担任が毎週学生状況を報告する会議を行うなど、学生状況の把握に努めることが退学率の低減につなげていく。メンタル面は学生相談室と経済面は学生課との連携も取りながら学生の状況を把握するように努めていく。 ③ 引き続き、1、2年ともに各学期ごとに目標設定シートと振り返りシートの作成し学生が自己の振り返りをシートに記入するだけでなく、1年生はクラス担任、2年生はゼミ担任が目標設定と振り返りのシートを個人面談等の学生指導に生かしていく。試験的に導入している学科版エンrollmentマネジメントのシートを、本格的な導入に向けて検討していく。 ④ 毎学期ごとの保護者への成績表配布と学科新聞の送付など、保護者への情報提供だけでなく、保護者会後の個人面談等や出席不良な学生の保護者への連絡などなるべく双方向でのコミュニケーションを取ることで保護者との連携を強めていく。 ⑤ 引き続き、秘書系授業や接遇マナー系授業などの実習や演習の科目を中心にアクティブラーニングを取り入れた授業を行っていく。また、今年度から地域連携科目も導入されるので、これらの授業も含めてアクティブラーニングなど学生が主体となって考えていく授業を増やすことで、学生が興味をもって授業に参加できる体制をこれからも作っていきたい。 ⑥ ビジネス社会学科は地方や遠方の保護者も多いため、保護者会を対面型の説明会と同時並行でリモートで説明会を行い、少しでも参加者を増やす努力を行っていく。今年度も対面とリモートの併用での保護者会を検討していく。 ⑦ 引き続きすべての学生が期日までにベーシックコースとステップアップコースを終了するように指導していく。そのために、引き続き毎月の学科会議後の学科FD委員会で各クラスの進捗状況を把握しつつ、これらの学生についての学生指導の方法を検討していく。

項目	2023年度 自己点検評価
研究	課題と2024年度の改善目標 (Action)
	① 2023年度は論文投稿数が減少したため、2024年度は学科の教員全員が、紀要または学会誌の投稿を行っていく。 ② 毎月担当する教員が研究報告を問題なく行っているため、2024年度も引き続き行っていきたい。 ③ 年2回の授業参観を学科教員全員が問題なく行っているため、2024年度も引き続き行っていきたい。
研究	改善に向けての具体的な計画 (Plan)
	① 2024年度は学科の教員全員が、紀要または学会誌の投稿を行っていく。 ② 毎月担当する教員が研究報告を2024年度も引き続き行っていく。 ③ 年2回の授業参観を2024年度も引き続き行っていく。

項目	2024年度 自己点検評価 ※箇条書きにて記入
研究	1. 取組状況 (Do)
	① 2024年度は学科の何名かの教員が紀要または学会誌の投稿を行った。 ② 教授会後の研究報告は2024年度も担当教員が行った。 ③ 年2回の授業参観は2024年度も全員が行った。
	2. 点検・評価 (Check)
	① 2024年度は学科の教員が紀要または学会誌の投稿を行ったが全員が行うことはできなかったので来年度の課題としたい。 ② 教授会後の研究報告は2024年度も担当教員が行うことができたことはよかった。 ③ 年2回の授業参観は2024年度もビジネス社会学科の教員全員が行うことができたことはよかった。
研究	3. 課題と次年度の改善目標 (Action)
	① 2024年度はビジネス社会学科の教員全員が論文投稿をすることができなかったため、2025年度は教員全員が、紀要または学会誌の投稿を行っていく。 ② 毎月担当する教員が研究報告を問題なく行っているため、2025年度も引き続き行っていく。 ③ 年2回の授業参観を学科教員全員が問題なく行っているため、2025年度も引き続き行っていく。
	4. 改善に向けての具体的な計画 (Plan)
	① 2025年度は教員全員が、紀要または学会誌の投稿を行っていく。 ② 2025年度も例年に引き続き教授会後の研究方向において、担当する教員の研究報告を行っていく。 ③ 2025年度も年2回の授業参観を学科教員全員が行っていく。

項目	2023年度 自己点検評価
管理運営	課題と2024年度の改善目標 (Action)
	① 問題なく学生情報の共有が行われているため、2024年度も引き続きこの体制を整えていきたい。 ② 次回の認証評価に向けての準備は進んでいない。前回の認証評価の3つの意見を確認し、対策を行っていく。 ③ まだまだSchoo Swingが使い切れていない状態であるため、より積極的に活用していく体制を整える。
管理運営	改善に向けての具体的な計画 (Plan)
	① 引き続き、学科会議後のFD委員会やベシックスセミナー担当会議などを活用して、学科内で学生情報(出欠状況や就活状況など)を全教員が随時情報を共有することができる体制を整えていく。 ② 7年後の認証評価に向けて、前回の3つの意見を精査するとともに、学科会議後のFD委員会等で前回の認証評価での改善すべき項目について検討していく。 ③ Schoo SwingなどのICTツールの活用を推進していくため、学科内で積極的に活用している教員が中心となって勉強会を行っていく。

項目	2024年度 自己点検評価 ※箇条書きにて記入
管理運営	1. 取組状況 (Do)
	① 学科会議後のFD委員会やベシックスセミナー担当会議などを活用して、学科内で学生情報(出欠状況や就活状況など)を全教員が随時情報を共有することができた。 ② 認証評価に向けて、前回の3つの意見を精査するとともに、学科会議後のFD委員会等で前回の認証評価での改善すべき項目については検討していない。 ③ Schoo SwingなどのICTツールの活用を推進していくため、学科内で積極的に活用している教員が中心となって勉強会を行っていない。
	2. 点検・評価 (Check)
	① 学科会議後のFD委員会やベシックスセミナー担当会議などを活用して、学科内で学生情報(出欠状況や就活状況など)を全教員が随時情報を共有することができたことはよかった。 ② 認証評価に向けて、前回の3つの意見を精査するとともに、学科会議後のFD委員会等で前回の認証評価での改善すべき項目について検討することができていない。 ③ Schoo SwingなどのICTツールの活用を推進していくため、学科内で積極的に活用している教員が中心となって勉強会を行うことができていない。
管理運営	3. 課題と次年度の改善目標 (Action)
	① 問題なく学生情報の共有が行われているため、2025年度も引き続きこの体制を整えていきたい。 ② 次回の認証評価に向けての準備は進んでいないため、前回の認証評価の3つの意見を確認し、対策をおこなっていく。 ③ google classroomの活用は定着しているが、Schoo Swingが使い切れていない状態であるため、より積極的に活用していく体制を整える。
	4. 改善に向けての具体的な計画 (Plan)
	① 2025年度も学科会議後のFD委員会やベシックスセミナー担当会議などを活用して、学科内で学生情報(出欠状況や就活状況など)を全教員が随時情報を共有することができる体制を整えていく。 ② 次回の認証評価に向けて、前回の3つの意見を精査するとともに、学科会議後のFD委員会等で前回の認証評価での改善すべき項目について検討していく。 ③ 授業で使用するSchoo Swingや、学科広報で使用するSNSなどのICTツールの活用を推進していくため、学科内で積極的に活用している教員が中心となって勉強会を行っていく。

項目	2023年度 自己点検評価
社会貢献	課題と2024年度の改善目標 (Action)
	① 学科新聞の送付や重点校への教員による高校訪問など積極的に行っていく。 ② 今までの課題であった集客力のある地域向けの公開講座を実施する。 ③ 引き続き学科の教員が学会運営や地域連携などの学外の活動に積極的に携わる。
	改善に向けての具体的な計画 (Plan)
	① 引き続き学科新聞の送付や重点校への教員による高校訪問など、高校側にビジネス社会学科の活動を知る機会を積極的にアピールしていく。 ② 人生100年時代をテーマに地域向けの公開講座を対面で実施する。この活動によって、入学対象者だけでなく、幅広い層にビジネス社会学科の存在をアピールしていく。 ③ 学科の知名度を高めていくためにも、引き続き学科の教員が学会運営や地域連携などの学外の活動に積極的に携わる機会を作っていく。

項目	2024年度 自己点検評価 ※箇条書きにて記入
社会貢献	1. 取組状況 (Do)
	① 引き続き学科新聞の送付や重点校への教員による高校訪問など、高校側にビジネス社会学科の活動を知る機会を積極的にアピールした。 ② 人生100年時代をテーマに地域向けの公開講座を対面で実施した。この活動によって、入学対象者だけでなく、地域住民を含めた幅広い層にビジネス社会学科の存在をアピールした。 ③ 学科の知名度を高めていくために、学科の教員が学会運営や地域連携などの学外の活動に積極的に携わった。
	2. 点検・評価 (Check)
	① 引き続き学科新聞の送付や重点校への教員による高校訪問など、高校側にビジネス社会学科の活動を知る機会を積極的にアピールすることができたことはよかった。 ② 人生100年時代をテーマに地域向けの公開講座を対面で実施することで、入学対象者だけでなく、地域住民を含めた幅広い層にビジネス社会学科の存在をアピールすることができたことはよかった。 ③ 学科の知名度を高めていくために、学科の教員が学会運営や地域連携などの学外の活動に積極的に携われたことはよかった。
	3. 課題と次年度の改善目標 (Action)
	① SNSの発信や学科新聞の送付、入試広報部と棲み分けをしつつ重点校への教員による高校訪問など積極的に行っていく。 ② 入学対象者だけでなく地域住民も含めた集客力のある地域向けの公開講座を実施する。 ③ 引き続き学科の教員が学会運営や地域連携などの学外の活動に積極的に携わっていく。
	4. 改善に向けての具体的な計画 (Plan)
	① SNSの発信や学科新聞の送付、入試広報部との棲み分けをしつつ重点校への教員による高校訪問など、高校側にビジネス社会学科の活動を知る機会を積極的にアピールしていく。 ② 人生100年時代をテーマに地域向けの公開講座を対面で実施することで、入学対象者だけでなく、地域住民も含めた幅広い層にビジネス社会学科の存在をアピールしていく。 ③ 学科の知名度を高めていくためにも、引き続き学科の教員が学会運営や地域連携などの学外の活動に積極的に携わっていく。

主要な国家資格・各種資格・検定結果(専門科目アセスメント・ポリシー)		
資格・検定等名	結果(受験者数・合格者数・合格率等)	評価
秘書技能検定	合格者: 準1級1名、2級12名	試験センターでのCBTによる検定であったが、今年度は2級だけでなく準1級といった高位級も取得できたことは、目標を達成することができた。
サービス接遇検定	合格者: 1級5名、準1級39名	試験センターでのCBTによる検定であったが、今年度は準1級が39名に加えて1級を5名 合格するなど、目標をはるかに上回って達成することができた。

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価			評価シート1		学科名		歯科衛生学科			
評価対象年度					2024年度(令和6年度)					
入学定員		60名	設置基準上の 必要教員数	専任教員数	10名					
収容定員		180名		教授内数	3名					
学 生 数 (5/1現在) ※含留学生	1年	47名	専任教員数 (5/1現在)			特任内数	博士内数			
	2年	52名				0名	3名			
	3年	67名				0名	0名			
	4年	0名				0名	1名			
	計	166名				0名	4名			
入学定員充足率		78%				他学科等所属専任教員数(5/1現在)	7名			
収容定員充足率		92%					19名			
休学者数(年度末集計)		3名	非常勤講師数(5/1現在)		19名					
退学・除籍者数(年度末集計)		5名	授業科目数	春学期	36コマ					
卒業生数		60名		秋学期	25コマ					
標準修業年限内卒業率(2022年度入学)		88%		通年/その他	1コマ					
進路状況 (年度末集計)	就職	51名	開講総コマ数	春学期	42コマ	内非常勤 担当	8.8コマ			
	進学	0名		秋学期	27.5コマ		6.5コマ			
	その他	9名		通年/その他	6コマ		0コマ			
	計	60名		科学研究費等補助金 ※当該年度配分額			0件	0千円		
就職率(就職者数/卒業生-進学者)		85%	特別研究費(除教育研究環境整備助成) ※当該年度配分額		0件	0千円				
社会貢献関連項目		件数	具 体 例							
産学連携(企業・団体)		2件	・公益財団法人8020推進財団における調査・研究活動協力 ・株式会社白水貿易主催の臨床歯科セミナー(講師)							
地域連携(自治体・団体)		0件								
所属学会、団体、企業等 ※役員等名も記載		5件	・日本歯科衛生教育学会 常任理事、編集委員長 ・一般社団法人 日本口腔感染症学会 副理事長、院内感染予防対策認定制度委員会委員 ・全国大学歯科衛生士教育協議会 理事 ・日本障害者歯科学会 代議員(2024.11月まで) ・日本障害者歯科学会 教育検討委員会歯科衛生士養成部会委員							
その他社会貢献事業 (高大連携など)		2件	・目白大学短期大学部公開講座 ・学園祭における来場者への実習施設体験および歯科保健活動							

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価	シート2 (学科長記入)	評価対象年度	2024年度(令和6年度)
カテゴリー	教育課程		
学部・学科	歯科衛生学科		
記入者氏名(役職)	佐藤 昌史(学科長)		

項目	2023年度 自己点検評価
教育(学生指導含む)	課題と2024年度の改善目標(Action) ① 欠席が多く授業についていけない学生への対策、課題提出に対する対策を図る必要がある。 ② 臨床技能試験(OSCE)の課題は出題担当で検討し、筆記試験においては事前に出題問題(国試の4年分過去問からの出題)を通知し、その中から50題出題しており次年度についても問題数や方法について検討する。 ③ 秋学期以降の本格的な国家試験準備を効果的に行うため、春学期から実習帰校日を利用した専任教員による基礎知識の定着や成績不振者への学習方法の指導を検討していく。 ④ ベーシックセミナーを通じて担任より、メジプロへの取り組みの進捗状況について頻繁にチェックを行い取り組みへの指導を強化し、前年度以上にステップアップ修了者が増えるように努める。 ⑤ 国家試験に対する準備が不十分な学生は就職活動に対する意欲も低いと思われ、主にゼミを通じて早期から意識付けを図っていく。
	改善に向けての具体的な計画(Plan) ① 欠席が多い学生への面談、保護者への通知などを担任・ゼミ担当で行う。学科全体で授業態度、ルールの遵守に対する指導を普段から徹底する。 ② 教員人数の減少により、同様の方法で実技試験および筆記試験が行えるか、担当者を中心に計画をたて検討する。可能な限り同規模での実施を予定。 ③ 春学期の登校日空コマを利用した専任教員による学習方法のセミナーや主要教科の基礎知識の確認講座を開催し10月までに基礎学力の向上を図る。1月までの模試で合格基準を超える学生を70%台に引き上げ、最終的に新卒の国家試験合格率90%を目指す。 ④ 引き続きベーシックコースは全員修了、ステップアップコースの1科目以上の修了は60%以上を目指す。 ⑤ 夏季休暇期間を利用した積極的な医院見学を促し、国家試験の本格的な準備時期に差し障らないよう年内の内定率50%を目指す。

項目	2024年度 自己点検評価 ※箇条書きにて記入
教育(学生指導含む)	1. 取組状況(Do) ① 欠席が多い学生や成績不振の学生へ個人面談や必要に応じて三者面談を行い、面談シートに記載の上、学科内で共有した。 ② OSCE(臨床技能実技試験)および筆記試験に関してほぼ昨年と同様に実施することができた。 ③ 春学期から実習帰校日の授業後、3年生の成績不振者に対し、基本事項を中心に補講を教員が分担して行った。アセスメントテストとして3回の模試を評価した。 ④ 春学期にメジプロベーシックコースの未終了者1名に対し個人面談で指導した。ステップアップコースの修了を目指し、日本語表現の科目の評価に組み入れた。 ⑤ 各ゼミにおいて、就職活動の状況や国試準備の状況を聞き取り、指導や相談に努めた。
	2. 点検・評価(Check) ① 成績不振者等への個人面談は1年生6名、2年生4名、3年生2名に実施した。また学外実習関係のトラブルなどに関する個別相談は約10名に行い学科内で共有した。 ② OSCE受験者64名のうち実技試験9名、筆記試験で1名が不合格のため後日、追再試を行った。登院判定では3名の学生が登院不可となった。 ③ 1月の全国模試において本学科の平均正答率は50%であり、例年以上に得点が伸びず、受験準備の遅れが推測された。 ④ メジプロのベーシックコース全科目の修了者は98%、ステップアップコース全科目の修了者は85%で大幅に改善された。 ⑤ 例年より早期に就職活動を開始する者が増えたが、年内の内定率50%には届かなかった。
	3. 課題と次年度の改善目標(Action) ① 低学年からの個人面談を継続し、特に出席不良者に対しては保護者への協力も得ながら指導を強化していく。 ② 再履修による授業スケジュールや臨地・臨床実習への影響が少なくなるようにしていく。 ③ 1月の第3回全国模試の平均得点率を60%以上となるよう国試対策を計画し、国家試験の新卒合格率90%、既卒合格率60%を目指す。 ④ 引き続きベーシックコース全科目の全員終了、ステップアップコース全科目の90%以上修了を目指す。 ⑤ 大学や学科が提供する就職イベントなどを有効に利用していない学生や内定後の報告がない学生がいる。就職意欲と国試準備は関連するのでゼミなどでも指導強化に努める。
	4. 改善に向けての具体的な計画(Plan) ① 入学選抜における学生の資質、意欲の見極めを再検討する。在学生においては低学年のうちに学習意欲低下が著しい学生への進路変更も視野に入れた指導を強化する。 ② 2学年次春学期修了時の登院判定の厳格化を図るとともに、学生への周知を徹底する。 ③ 3学年次春学期から課題問題を毎日配信して、学習習慣の定着と基本事項の知識習得を図る。既卒者対策として受験意思の確認、聴講生制度の利用を強く促していく。 ④ 基礎教育科目の単位認定条件として組み込むことでメジプロベーシックコース全科目の100%修了、ステップアップコース全科目修了者90%以上の修了を目指す。 ⑤ 春学期からの就活イベントへの参加を促し意識を高めるとともに、夏季休暇を利用した就職活動を指導し、引き続き年内内定率50%を目指す。

項目	2023年度 自己点検評価
研究	課題と2023年度の改善目標 (Action)
	① 臨床分野での資料収集や実験は現況では難しいが各教員が専門とする分野で、実現可能なテーマ設定や研究デザインを見出す。 ② FD研修発表会での発表の機会から将来、紀要への投稿、また専門学会での発表へ繋げていく。
	改善に向けての具体的な計画 (Plan)

- ① 学科全体で取り組めるテーマの模索および各教員が関わりのある施設や他大学との共同研究を積極的に進める。
② 若手教員を中心に研修会での発表の機会を継続していく。

項目	2024年度 自己点検評価 ※箇条書きにて記入
研究	1. 取組状況 (Do)
	① 学会発表は他大学との臨床研究に参加し一題演題発表を行った。また、3名が共同で一題口演発表を行った。その他、短大紀要に2名が共同研究者として論文発表を行った。 ② 短大FD研修会では教員1名が研究紹介、2名の学科教員が教学に関する宿題テーマで他学科教員と分担発表を行った。
	2. 点検・評価 (Check)
	① 学科全体としての研究テーマについては、まだ模索中である。 ② 引き続きFD研修会などを足掛かりに研究の機会を作る。
	3. 課題と次年度の改善目標 (Action)

- ① 短大紀要への投稿を前年度より増やすよう努める。
② 個人へ学科業務の負担が偏らないように努め、学会参加などの機会を促進する。

4. 改善に向けての具体的な計画 (Plan)

- ① 他大学や他施設との共同研究への参入の可能性を探り、研究テーマの幅を広げる。
② 社会人大学院に在籍する教員への支援と業務分散を図る。

項目	2023年度 自己点検評価
管理運営	課題と2024年度の改善目標 (Action)
	① 引き続き学内の紀要への投稿を促すとともに、専門学会における発表、科研費応募へのチャレンジを目標とする。 ② 3名の専任教員および助手の退職に対し、専任教員1名、助手1名の新加入に留まっており、2024年度の業務に支障や負担が偏らないように、学科内の意思疎通をこれまで以上に図る必要がある。引き続き、欠員の補充に努める。
	改善に向けての具体的な計画 (Plan)

- ① 特に若手教員が専任教員講習会など教育業績や今後のキャリアアップにつながる活動に参加できるよう協力して業務の分担を図るよう努める。
② 学科会議で学生情報、各委員会等の情報を効率よく共有するとともに、他学科とも交流を図り、協力体制をとっていく。
③ 教育業務、学科運営、研究活動において未補充の専任教員の確保が急務であり、適切な人材の採用に向け各方面に積極的に働きかけていく。

項目	2024年度 自己点検評価 ※箇条書きにて記入
管理運営	1. 取組状況 (Do)
	① 業務分担により、2024年度は若手教員1名が講習会へ参加できた。 ② 未補充の専任教員確保に向けて、将来の学科教員の動向を視野に入れて2025年度に向けた積極的に適切な人材情報の収集に努めた。
	2. 点検・評価 (Check)
	① 2024年度は教員未補充が続き、助教、助手の時間外勤務が多くなってしまった。 ② 積極的な採用活動を行い、次年度に向け専門分野における教育経験の豊富な歯科医師教員1名(准教授)および歯科衛生士教員1名(助教)を採用できた。
	3. 課題と次年度の改善目標 (Action)

- ① 教員不足で学科広報活動、行事などに不十分な面が生じたため、次年度は教員補充に伴い、学科新聞作成など広報活動にも力を注ぐ。
② 2026年度カリキュラム改訂、社会人受け入れ態勢など検討を進めていく。

4. 改善に向けての具体的な計画 (Plan)

- ① 新たな教員を迎え、順次専任教員講習会などへの参加を促進し、特に若手教員の育成を図る。
② カリキュラム改訂等、議案が多くなることが想定され、定例学科会議以外に必要に応じて臨時会議を設けて対処する。
③ 将来の学科構想を視野に入れた欠員教員の補充を図っていく。

項目	2023年度 自己点検評価
社会貢献	課題と2024年度の改善目標 (Action)
	① 引き続き、参加が期待できる高齢者などをターゲットとした関心を引きそうなテーマで公開講座を開催し、集客に努めていく。
	改善に向けての具体的な計画 (Plan)

- ① 次年度も地域の参加者を対象にした口腔保健や歯科疾患の予防に関する公開講座を予定し、参加者増加に向けた効果的な集客活動に努める。
学園祭時のイベントとして2024年度は実習を組み入れることが困難な場合は、歯科保健の啓蒙につながるイベントを検討する。

項目	2024年度 自己点検評価 ※箇条書きにて記入
社会 貢 献	1. 取組状況 (Do)
	① 地域の高齢者等の参加を見据えた歯周疾患をテーマとした公開講座を実施した。
	② 学園祭イベントにおいては、学生を参加させて実習室を使った歯科診療機器操作の体験や紹介を行った。
	2. 点検・評価 (Check)
	① 公開講座は概ね好評であったが、参加人数は8名でほぼ例年なみであった。
	② 学園祭での診療機器の体験や操作の企画は、子ども連れ家族の来場者などに予想以上に好評であったと思われる。
	3. 課題と次年度の改善目標 (Action)
	① 公開講座のテーマの幅を少し広め、集客人数の増加を図る。
	② 積極的な学生参加を促し、学園祭出展を検討する。
	4. 改善に向けての具体的な計画 (Plan)
	① 公開講座のテーマの幅を少し広め、社会的な関心事も含めたテーマ設定を検討し、幅広い年齢層の聴講者の増加に努める。
	② 近隣歯科医師会等の口腔保健活動に関する行事への参加を検討する。

主要な国家資格・各種資格・検定結果(専門科目アセスメント・ポリシー)		
資格・検定等名	結果(受験者数・合格者数・合格率等)	評価
歯科衛生士	全体: 受験者74名 合格49名 (66.2%) 新卒: 受験者60名 合格者47名 (78.3%) 既卒: 受験者14名 合格者2名 (14.2%)	新卒の合格率90%以上の目標を大幅に下回った。

専門科目アセスメント・ポリシー

学位プログラムレベルの点検・評価
(卒業認定・学位授与等の方針に関する規程第 7 条関連)

目白大学短期大学部 各種アセスメントの達成目標 2024 年度版

(1) 成績評価による検証 (ASP2 に対応)

【全学科共通】科目の成績評価を通して学修成果の評価を行う。評価にあたっては、評価の方法、評価の観点および評価基準をシラバスに明示したうえで、厳格な成績評価を行う。

(2) 出席率による検証 (ASP1 に対応)

【全学科共通】

④達成度評価の目安 S：達成度 100% A：80%以上 B：50%以上 C：50%未満 D：実施できず

①評価の指標	②達成目標 (数値指標)	③実施結果	④達成度	⑤次年度の改善点 等	⑥DPとの 相関
・ 全開講科目の毎授業毎の出席率	出席率 80%以上	【製菓】 春：1 年生 89.7%、2 年生 95.5% 秋：1 年生 88.3%、2 年生 90.9% 【ビジネス社会】 春：1 年生 89.6%、2 年生 83.4% 秋：1 年生 87.6%、2 年生 84.2% 【歯科衛生】 春：90.9%、秋：88.8%	S	短期大学部全体として目標の 80%は超えているものの、学期・学年間に格差が見られることから、欠席過多にならないように注意喚起する。	3 学科とも DP に掲げている事柄を達成するためには、授業に出席することが必要不可欠である。A 評価であることから、DP の達成に向けて評価できる。

(3) 学生の主観的評価によるアセスメント (ASP3 に対応)

【全学科共通】

④達成度評価の目安 S：達成度 100% A：80%以上 B：50%以上 C：50%未満 D：実施できず

①評価の指標	②達成目標 (数値指標)	③実施結果	④達成度	⑤次年度の改善点 等	⑥DPとの 相関
・ 新入生アンケート、在学生アンケート、卒業生アンケート、学生による授業評価アンケートから、学生の学修意欲・学習到達度・成長感等について評価する。	アンケートの肯定的回答 80%以上	各種アンケートの結果は概ね80%以上が肯定的回答であった。しかし、卒業生アンケートの結果では「授業の内容」「短大生活全体への満足」について、製菓学科とビジネス社会学科では80%を超えたものの、歯科衛生学科では、「授業の内容 52.6%」「短大生活全体への満足 40.3%」と極端に低かった。	A	在学生アンケートの回答率が 84.9%と他に比べて低かったことから、次年度は回答率を上げる。また、項目ごとの回答結果を各学科で精査し、80%以上の肯定的な回答を得られるように努める。	短期大学部が掲げる 3 つの力と専門教育を通して、資質・能力を獲得できることを目標に、各学科が定めた観点に合致した人材育成と関連する。学習および卒業後の進路の決定までを含めた学生生活全体の満足度を高める。

【製菓学科】

④達成度評価の目安 S：達成度 100% A：80%以上 B：50%以上 C：50%未満 D：実施できず					
①評価の指標	②達成目標 (数値指標)	③実施結果	④達成度	⑤次年度の改善点 等	⑥DPとの 相関
・ 毎学期ごとに「目標設定・評価シート」を用いて振り返りを行い、学生自身が自己評価する。	4段階で評価し、提出者の70%以上が平均4.0以上の評価 5：よくできた 4：できた 3：あまりよくできなかった 2：できなかった	1年生31名 春学期平均72.2% 秋学期平均72.6% であった。	S	「総合評価」4.0以上が目標値70%以上を確保できるよう指導する	食についての基礎的な知識、製菓に関する専門知識を修得し、適切な判断をすることができると関連する。
・ インターンシップ参加者は日報および自己採点レポート課題から振り返りを行い、成長感を評価する。	出席、日報、自己採点レポート課題の提出100%により「G」評価	23名が1週間以上の企業研修に参加し、単位取得に至った。	S	今年度は単位取得率100%であったが、貫徹し終了できるよう事前指導に当たる。	食についての基礎的な知識、製菓に関する専門知識を修得し、適切な判断をすることができると関連する。

【ビジネス社会科学科】

④達成度評価の目安 S：達成度 100% A：80%以上 B：50%以上 C：50%未満 D：実施できず					
①評価の指標	②達成目標 (数値指標)	③実施結果	④達成度	⑤次年度の改善点 等	⑥DPとの 相関
・ 毎学期ごとに「目標設定シート」「評価シート」を用いて振り返りを行い、学生自身が自己評価する。	4段階で評価し、提出者の70%以上が平均4.0以上の評価 5：よくできた 4：できた 3：あまりよくできなかった 2：できなかった	例年同じような評価になっているが、1年生は資格取得や学修について高い評価を付けている。今年度も資格取得をした学生が多く、このような結果につながった。2年生は全体的に肯定的な回答「○や◎」が多かった。	A	1, 2年生ともに4.0「○」の評価を付けている学生が多かった。現在の1, 2年生は通常の学生生活を送ることができるようになったこともこのような結果につながっているといえる。次年度も学生が満足いく学生生活を送れるように支援していきたい。	ビジネスに関する【知識・理解】【能力】【態度・志向性】を修得できているかを確認するためにも毎学期ごとの振り返りを行うっていくことは重要である。今年度はA評価とし、DPの達成に向けてより努力を行うっていく。
・ インターンシップ参加者は日報から振り返りを行い、成長感を評価する。	出席と日報の提出 100%により「G」評価	12名がインターンシップに参加し、全員日報を提出した。ほとんどの学生が複数社のインターンシップに参加し、2週間以上のインターンシップ参加者も1名いた。大学病院、ホテル、企業での業務見学・体験の機会を学科で提供し、対面・実地で実施することができた。学生達が	A	次年度も大学病院、ホテル、企業などが希望する業界や職種だけでなく、幅広いインターンシップを経験することの重要性を理理解させた上で就業体験を行っていく。	「観点③【態度・志向性】社会に対する関心を持ち、自らの立場から社会の変化に対応し、責任ある行動をとることができると関連する。A評価であることから、DPの達成に向けて評価できる。

		今後のキャリアを考え、進路選択につなげる機会となった。			
--	--	-----------------------------	--	--	--

【歯科衛生学科】

④達成度評価の目安 S：達成度 100% A：80%以上 B：50%以上 C：50%未満 D：実施できず

①評価の指標	②達成目標 (数値指標)	③実施結果	④達成度	⑤次年度の改善点 等	⑥DPとの 相関
・ 臨床・臨地実習においては、ポートフォリオ（ケース記録表・実習日報・実習記録）を通して日々自己評価を行う。	自己評価ルーブリックを用いた学生自身による評価得点 60 点以上	履修者 61 名の自己評価は全員が 60 点以上であった。	S	毎日作成する日報を通じて、実習中の不明な点を、自ら調べて記載し知識の整理や復習につなげる。提出が滞る学生への指導強化。	口腔保健に関する専門知識や技術を習得し、高度化する歯科医療・多様化するニーズに応えるためには、自分の行動や日常の学習態度を振り返ることは必要となる評価である。
・ 実習先ごとに臨床評価表（自己評価表）で自習態度、知識・技術等について自己評価を行い、実習を通して達成度・満足度・成長度・課題等について自己分析する。	自己評価ルーブリックを用いた学生自身による評価得点 60 点以上	履修者 61 名の評価は全員が 60 点以上であった。	A	体調面での自己管理についても指導や相談を強化する。	様々な臨床現場で実習を行うことで医療人として求められる態度や行動、コミュニケーション力について自己評価することは必要である。

(4) 授業科目の成績評価以外の能力面アセスメント (ASP4 に対応)

【製菓学科】

④達成度評価の目安 S：達成度 100% A：80%以上 B：50%以上 C：50%未満 D：実施できず

①評価の指標	①-2 対応科目	②達成目標 (数値指標)	③実施結果	④達成度	⑤次年度の改善点等
・ 卒業時に「学修成果確認試験」を行い、在学中に身につけた学修成果を評価する。	製菓衛生師、実践コースに共通する講義科目（和菓子、洋菓子、製パン、食品衛生学、栄養学）	各分野 60%以上の正解	1 月 28 日対面で実施し、47 名中 44 名が合格した。3 名が再試験となったが、再試験の結果合格となった。	S	合格基準を 60%とし 3 名の再試験学生となった。1 年生春学期履修科目からの出題や製菓実技を試験範囲とするなど内容を検討する。
・ 製菓衛生師資格の合格率により、学習到達度を評価する。	公衆衛生学、食品衛生学、食品学など、製菓衛生師資格に関わる科目	千葉県製菓衛生師試験（国家試験）合格率 90%以上	28 名が受験し 28 名全員が合格した。 (100%)	S	対策講座の実施内容を見直しが成果に現れた。出題傾向の変化には対応が必要である。

・ 商業ラッピング検定3級、カラーコーディネーター検定の資格取得率で学修成果を評価する。	ラッピング実習、カラーコーディネーター論および演習	どちらかの検定試験に受験者の半数以上が合格	商業ラッピング検定3級は19名中15名(78.9%)が資格取得した。	S	達成目標の数字を維持できるよう指導する。
--	---------------------------	-----------------------	------------------------------------	---	----------------------

【ビジネス社会学科】

④達成度評価の目安 S：達成度100% A：80%以上 B：50%以上 C：50%未満 D：実施できず

①評価の指標	①-2 対応科目	②達成目標 (数値指標)	③実施結果	④達成度	⑤次年度の改善点等
・ 卒業時に「学修成果確認試験」を行い、在学中に身につけた学修成果を評価する。	4つのフィールドのうち学生が選択しているフィールドの科目	確認試験の基準をクリアした卒業年次生が100%	卒業年次生47名のうち46名が期限内に提出し合格基準に達し、残りの1名は期限後の提出となったが、審査後に合格となった。	A	今年度も年度初めの時点で年度末に試験を行うことを周知し、卒業予定者全員が合格できるように指導を行った。結果は1名が締め切り後の提出となり、その後合格となった。来年度も今年度と同じく授業終了と合わせて試験を実施すること、セミナー等で周知を徹底し、全員が期限内に提出できるようにしていきたい。
・ 秘書技能検定試験およびサードビス接遇検定試験の資格取得率で学修成果を評価する。	ビジネスマナー、秘書学概論、秘書実務、秘書演習Ⅰ・Ⅱ	どちらかの検定試験に受験者の50%以上が合格	秘書検定2級が17名、サードビス接遇検定2級15名、準1級は23名、1級が7名とたくさん合格者を輩出できた。	A	秘書技能検定試験が通常試験以外にCBT方式も行っているため、合格率を明確にすることが難しくなっている。次年度からは合格率ではなく、在籍者に対する合格者数で目標数値を設定していきたい。

【歯科衛生学科】

④達成度評価の目安 S：達成度100% A：80%以上 B：50%以上 C：50%未満 D：実施できず

①評価の指標	①-2 対応科目	②達成目標 (数値指標)	③実施結果	④達成度	⑤次年度の改善点等
・ 「学修成果確認試験」を行い、在学中に身につけた学修成果を評価する。	国家試験出題基準に応じた出題範囲、出題数(220問)で試験を行う。 (12月、1月、2月に行う模擬試験3回分)	模擬試験3回の平均得点率が60%以上を合格	合格者(61名中13名)再試験①:48名中41名 再試験②7名中4名 再試験③2名中2名(*1名 留年)	B	模擬試験3回の得点率の平均が60%以上の者が半数を超えるようさらに早期に国家試験を意識した準備を学生に促す。

・ 国家試験の合格状況から学習到達度を評価する。 歯科衛生士資格の取得者数及び取得率	歯科予防処置、歯科診療補助、歯科保健指導を中心に歯科衛生士資格に関わる科目	歯科衛生士資格取得率 90%以上	歯科衛生士国家試験新卒 合格率：78.3% (47名) 既卒：14.2% (2名) 全体：66.2% (49名)	B	入学時からの学習態度、学習意欲の向上と国試への意識づけおよび成績不振者への早期の個別指導の強化をはかる。 3 年次は春学期から小テスト課題および帰校日に補修を検討 既卒不合格者への保護者を含めた進路相談の強化
・ 臨床・臨床実習の臨床場面における態度や知識・技術に関して学外指導者（歯科医師・歯科衛生士）が評価する。	臨床・臨床実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	学外指導者評価 60 点以上	実習終了者全員が 60%以上の評価であったが、補講実習の期間が長い者がいた。	S	実習期間中の体調が不安定な学生が見られるため、個別相談など支援に努める

(5) 入学前教育の学修成果 (ASP5 に対応)

【全学科共通】

④達成度評価の目安 S：達成度 100% A：80%以上 B：50%以上 C：50%未満 D：実施できず

①評価の指標	②達成目標 (数値指標)	③実施結果	④達成度	⑤次年度の改善点 等	⑥DPとの 相関
・ メジプロ取組状況	【ベージックコース】 製菓：春学期末までに 5 教科終了 ビジネス：春学期末までに 5 教科終了 歯科：5 月末時点で 3 教科（英・数・国）終了、春学期末までに 5 教科終了努力目標 【ステップアップコース】 製菓：5 教科終了 ビジネス：3 教科（英・数・国）終了	【ベージック】 製菓：100% ビジネス：100% 歯科：100% 【ステップアップ】 製菓：93.8% ビジネス：3 名未達 歯科：85%	A	3 学科の全学生がベージックを終了することができた。ステップアップコースも全員の終了を目指す。	「観点①【知識・理解】ビジネス社会に必要な基礎的な知識を身に付け、問題解決に向けて適切に判断することができ」を達成するためには、基礎的学力を身に付けていることが求められる。そのことからメジプロを修了することが必要である。A 評価であることから、DP の達成に向けて評価できる。
・ メジプロ実力判断テスト	3 教科（英・数・国）それぞれの正解率 60%以上	【製菓】 4 月：英語 67.2%、国語 72.0%、数学 79.2%、 1 月：英語 65.4%、国語 80.8%、数学 77.9% 【ビジネス】 4 月：英語 65.2%、国語 74.3%、数学 77.8% 2 月：英語 63.5%、国語 78.2%、数学 73.8% 【歯科】	A	春学期、秋学期ともに 3 科目とも 60%以上の正解率であった。英語の正解率が低いことから、メジプロの中にあるドリル等を行うように指導する。	3 学科それぞれの専門基礎力に相關する。自分の到達度を客観的に把握する上で有効である。

		5月：英語 65.6%、国語 71.2%、数学 79.3% 1月：英語 71.3%、国語 74.5%、数学 78.1%				
・ 卒業後アンケート（卒業生アンケート※1）	学びの有効性 60%以上	卒業生アンケートの結果から「目白短大で学んだことは卒業後に活かすことができる」という設問では、学科ごとには差はあるが、短大全体では 67.6%であった。また、「短大生活での学びを振り返り、自信がついた」という設問では、短大全体で 50.8%であった。	A	短大全体では目標値を超えたが、学科間の格差が大きいことから、さらにFD研修会等を通して授業の改善を含め、学びの有効性を高める。	短大DPに掲げている「先行する分野の基礎的知識や技能、技術を修得し、活用することができ。」を達成するには、自信をつけさせることも大切である。	
・ 就職先企業等に対する本学卒業生の学習成果調査※2	学びの有効性 60%以上	調査結果では、卒業生は職場に調和し、積極的に取り組んでいるとされる率が70%を超え、他者と協力する力を発揮している。また、企業との懇談会に参加いただいた企業からは、主体的に業務に取り組んでくれており、コソコソとまじめに勤務してくれているなど、概ね好意的な意見をいただいた。	A	企業から大学教育に求めることとして、自身の考えをきちんと述べることでできる教育や、仕事の現場とのギャップを極力減らすような教育、コミュニケーション能力、協調性の向上を求める声があった。より実践的な学びを指導していきたい。	短大での学びの有効性を確認するため、企業との懇談会や外部評価委員会、インターンシップ先の企業や実習先との懇談など、さまざまな機会を通して、企業の求める人材と短大での学びを結び付けられるよう努める。	

※1：一般財団法人大学・短期大学基準協会の卒業生調査とする。

※2：企業との懇談会での意見聴取を含む。

以上

各種委員会

内部質保証委員会

F D 実施委員会

教務委員会

学生委員会

就職・キャリア委員会

入試広報委員会

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価	評価シート7	組織名称（評価单位名称）	委員会・センター
カテゴリー	内部質保証		
担当委員会・センター（構成員数）	内部質保証委員会（52名）		
担当部署	大学企画室		
記載責任者（役職）	太原孝英（委員長・大学学長）、山田隆文（副委員長・短期大学部学長）、池村えみ（内部質保証担当）		
会議概要（実績回数）	本委員会3回、大学・大学院部会2回、短期大学部部会1回、大学外部評価委員会1回、大学学生評価委員会1回、短大外部評価委員会1回		
添付エビデンス	目白大学・目白短期大学部における内部質保証に関する規程（2023年3月1日改正施行）、内部質保証委員会会議資料・事概要、短大外部評価委員会報告書録・高大連携に向けた懇談会実施報告・企業との懇談会実施報告、大学外部評価委員会報告書、大学学生評価委員会報告書・各学科専門科目アセスメントポリシー 第5次中期目標・中期計画 https://www.mejiro.ac.jp/gakuen/pdf/mt_plan_2024-2028.pdf		

項目	2023年度 自己点検評価
事業内容	課題と2024年度の改善目標（Action） 【部門別自己点検年次評価報告書】報告書の実質化を図るために、2025年度に向けて、第5次中期目標・中期計画を反映させる項目の追加と目的を記載するなどの改善を検討する。 【短大：外部評価委員会】第5次中期目標・中期計画に基づき、外部評価（外部有識者、高校、就職先）を行い、教育活動の点検、妥当性の確認、改善による質の向上を目指す。 【大学：外部・学生評価委員会】外部評価委員会及び学生評価委員からの評価と改善すべき事項を明確にし、学内周知を図り、教育の質の向上を推進する。 【大学：IRの各種アセスメント分析】効果的なIR活動、IRの高度化を行うために、第5次中期目標・中期計画に則り、各種アセスメントの見直しを行う。 【大学：新3方針の策定】外部評価委員会での評価を受けAPの改善に取り掛かると同時に、第5次中期目標・中期計画に則り、DPも含め、新3方針の策定に取り掛かる。 【短大：新3方針の策定】第5次中期目標・中期計画に則り、新3方針の検討、コンピテンシー教育の基本方針を策定する。 【第5次中期目標・中期計画】目標・計画に則り、教育・研究活動の向上を図る。 改善に向けての具体的な計画（Plan） 【部門別自己点検年次評価報告書】2025年度では、各項目が自己評価できるように改善することと、目的を明確にするフォームへ秋学期はじめ頃までにフォームを確定する。 【短大：外部評価委員会】高校とは授業見学会の開催を行うなど新しい試みを行い、高大連携を強化する。 【大学：外部・学生評価委員会】外部評価委員会の指摘事項を抽出し、各部門（委員会等）へ周知した後、各部門での改善進捗を確認する制度を構築する。学生評価委員会からの改善提案は教務ポータルなどで状況報告し、説明責任を果たす。 【大学：IRの各種アセスメント分析】基礎力はGPS-Academicと全学科1年のベーシックセミナー内で行う。また、国語アセスメントもベーシックセミナー内で行う。授業内で行うにあたり、各アセスメントを単なる分析活用だけでなく、各学生の教育効果と学修成果の可視化に役立てる。年度内に新国語アセスメント方針を策定し、2025年度の準備を整える。 【大学：新3方針の策定】第5次中期目標・中期計画に則り、新3方針の秋学期初頭には各学科・各部門へ発表できるように検討する。 【短大：新3方針の策定】第5次中期目標・中期計画に則り、各学科のビジョン、学修成果の明確化を行う。また、新3方針の策定、コンピテンシー教育の基本方針の検討を開始する。 【第5次中期目標・中期計画】2024年度の計画を遂行し、進捗を管理する。

項目	2024年度 自己点検評価 ※箇条書きにて記入
1. 取組状況（Do）	【部門別自己点検年次評価報告書】 フォームの大きな改定は出来なかったが、2025年度作成（2024年度報告書）は大学・短大は専門科目アセスメントポリシーの結果を加えることで、各学科のアセスメントと評価について報告した。また、2024年度作成（2023年度報告書）今年度より認証評価での指摘を受け、大学・短大の学科別及び大学院の専攻科シートの教員数表示に、設置基準上の必要教員数を記載し、教授数等が基準を満たしているか、確認できるようにした。 【短大：外部評価委員会】 ・高大連携に向けた懇談会は、オンライン形式から対面に変更し、2回（①5月29日、②12月10日）した。なお、2回とも授業見学会を行い、その後で懇談会を行った。 ・企業との懇談会（9月19日）を開催した。 ・外部評価委員会（11月9日）を開催し、テーマは「教育」「学生募集」「研究」「学生指導」「社会貢献」等であった。 【大学：外部・学生評価委員会】 ・外部評価委員会：過去の指摘事項をまとめ、執行部で共有したが、各部門までは周知できなかった。 ・外部評価委員会：2月14日に開催し、テーマは、入試と中退防止、授業評価アンケートであり、会議後の評価をいただいた。 ・学生評価委員会：新宿CP：は1月28日、岩槻CP：は1月30日に開催し、テーマは共通科目（一般教養）について意見交換した。 【大学：IRの各種アセスメント分析】 各種アセスメントは、滞りなく実施した。国語アセスメントは、2種類のテストのモニター調査を行い、1つに絞り、国語・外国語としての日本語教育部会と検討し、「日本語検定3級団体特別試験」とした。また、各種アンケート集計作業の迅速化を図った。在学生アンケートは、大学・短大ともに「全国学生調査第3回試行実施」に参加した。 【大学：新3方針の策定】 各学科にてカリキュラムツリーの作成に続き、新DP案を策定した。（第5次中期目標・中期計画/Ⅰ.教育/2.DP等の見直し） 【短大：新3方針の策定】 各学科のビジョン、学修成果の明確化を行う。また、新3方針の策定、コンピテンシー教育の基本方針の検討を開始する。（第5次中期目標・中期計画/Ⅰ.教育/1.Visionの明確化と教育課程の再編）

- ⑦【第5次中期目標・中期計画】
2024年度の計画を遂行にあたり、各項目の責任者、タスクフォース、委員会を明確にした新進捗管理表を作成し、半期評価、通年評価を行った。また、大学は12月に全学科長とヒアリングを行い、全学的な方針の共有と学科の状況把握に努めた。
- ⑧【機関別認証評価への対応】
大学：2023年度に受審した評価結果の改善報告書を2026年度に公表するにあたり、第3回内部質保証委員会にて、現状の課題を共有した。
＜改善を要する点＞
・作業療法学科の収容定員充足率0.7倍未満であること
・社会情報学科の教授数1名不足であること
・上記2点について、内部質保証の機能性が十分といえないこと
＜参考意見＞
・言語聴覚学科の収容定員率が低い点
- ## 2. 点検・評価 (Check)
- ①【部門別自己点検年次評価報告書】
2024年度作成(2023年度報告書)は大学1学部提出が遅れ、大学の完成が予定より遅れた。大学は専門科目アセスメントポリシーの評価を報告書に加え、公表した。短大報告書HP公開は7月、大学・大学院報告書HP公開は9月であった。
- ②【短大：外部評価委員会】
・高大連携に向けた懇談会：2024年度は授業見学を加えることで、短大の雰囲気を感じ取っていただいた上での懇談の場とした。参加校は5月、12月ともに2校参加と少なかったが、授業見学の効果は高く、参加高校の先生からも好評であった。懇談会では、本学授業の評価、現在の高校性の進路志向など、内容の濃い情報交換ができ、参加校との連携を深める機会となった。
・企業との懇談会：参加企業数が4社であったが、異なる業種の方に参加いただき、多様な視点での意見交換が行われ、指摘事項をキャリア教育や全学での教育に活かす。
・外部評価委員会：オンライン形式で行い、様々な意見をいただいた。
- ③【大学：外部・学生評価委員会】
・外部評価委員会の指摘事項：過去第1回から第4回の指摘事項を執行部で共有したが、各部門へフィードバックすることができず、具体的な検証はできていない。
・外部評価委員会：2024年度は各委員より事後評価にて改善すべき事項や良い点について詳細な意見をいただいた。2025年度は、これまでの委員会での良い点と改善すべき点を各部門と共有し各部門の点検に活かす。
・学生評価委員会：委員会では、グループワークの後、各グループに執行部や学務部長、教務部長等に参加いただき、各グループ発表前に近い距離で学生との意見交換を行う場を設定した。学生からは共通科目について、さまざまな具体的な提案、新しい科目への提案があった。提案事項や良い点は教養教育機構と共有し、教育の質向上に役立てる。
- ④【大学：IRの各種アセスメント分析】
・基礎力測定GPSは両キャンパス教務委員会にて各学科の状況を報告した。国語アセスメントは、国語・外国語としての日本語教育部会と結果を共有し、新アセスメントについて、日本語検定3級団体特別試験での実施に了承を得た。英語アセスメントは外国語教育部会と結果を共有した。(当該案件は高等教育研究所にて詳細を記載するものとする)
・アンケート集計の迅速化は、情報システム課の協力のもと、次年度より活用する運びとなった。
・教学改善の事例を高等教育研究所のHPから公表した。
- ⑤【大学：新3方針の策定】
・各学科DP：カリキュラムツリーは、各学科が作成した第一案をもとに10月にワークショップを行い、大学の方針、学科の趣旨等を擦り合わせをした。続いて、各学科で新DP案の策定、12月にタスクフォースで検討した後、学科毎にフィードバックを行い、各学科で新DP第二案と学科の特色を表現した大目標の策定にとりかかった。新DP第二案策定にあたっては、地域社会学科観光まちづくりコース、保健医療学部、看護学部の新DP第一案を見本とした。
・全学DP案はタスクフォースで検討した。
- ⑥【短大：新3方針の策定】
・新3方針について、10月30日に第5次中期目標・中期計画に関するグループディスカッションを行い、12月教授会で共有した。また、12月に開催した研究交流会にて、ディプロマポリシーの見直しに向けて、全学でワークショップを行い、短大全体の共通認識を深めた。
・コンピテンシー教育の充実に関しては、2024年度より教養科目(製菓学科・ビジネス社会学科)として新設科目「ウェルビーイングを考える」をスタートさせた。
- ⑦【第5次中期目標・中期計画】
・2月14日の第5次中期目標・中期計画策定委員会にて改訂版が承認され、2025年度より本格的にスタートするにあたり、年度ごとの計画(マイルストーン)、半期、通年の評価、責任者・タスクフォース・委員会等の明記による責任の所在等を明確にし、組織的な対応や協働を進めやすくした。
・大学では12月に行った学科長ヒアリングから、STEAM教育の可能性、主体性を育成する科目、学外学習での効果、学生支援、表彰制度、保護者との連携など学科の状況を把握した。
・短大では10月に行った全教員と短大都会メンバーによるディスカッションで第5次中期目標・中期計画について理解を深めた。
- ⑧【機関別認証評価への対応】
・大学が認証評価の改善を要する点として指摘された事項である社会情報学科の教授数は、年度内に是正した。なお、引き続き、教員数については短大も含め、資格審査委員会ですぐに対応する。
・大学が認証評価の改善を要する点として指摘された事項である定員充足率の低い学科については、改組を進めるため、指摘学部以外も含め、検討委員会を設立し、十分な議論を行い、改善する。
・短大では、機関別認証評価受審による教育の質保証と継続的改善の意識を学内で高める目的として、第5次中期目標・中期計画のほぼすべての項目で機関別認証評価を最終年に記した。
- ## 3. 課題と次年度の改善目標 (Action)
- ①【部門別自己点検年次評価報告書】フォームの変更により、学科が自己点検・評価を行い、教育の質の保証、向上を自ら行うようにする。
- ②【短大：外部評価委員会】
・高大連携に向けた懇談会：引き続き、連携を深める懇談会を企画する。
・企業との懇談会：参加企業数の向上を図る。
・外部評価委員会：任期満了を迎える委員の選考を行い、委員会を開催する。
- ③【大学：外部・学生評価委員会】
・これまでの指摘事項、改善提案について、取りまとめ、教育の質向上に活用するため、まずは学内での共有と委員会活動のPRを行う。
・外部評価委員会：スムーズな運営を目指し、9月には新構成員へ依頼書を送付し、第3期外部評価委員会をスタートさせる。
・学生評価委員会：スムーズな運営を目指し、構成員の選出、委員会開催や事後処理を早期に行う。
- ④【大学：新3方針の策定】(第5次中期目標・中期計画/Ⅰ.教育/2.DP等の見直し)
・各学科DP：2027年度3方針改正の準備を進める。
・全学DP案：2026年度新共通科目改正に向けて、準備を進める。

- ⑤【短大:新3方針の策定】(第5次中期目標・中期計画/Ⅰ.教育/1.Visionの明確化と教育課程の再編)
 - ・各学科の新3方針を決定する。
 - ・学修成果の評価方法(アセスメントポリシー)の具体的評価方法を決定する。
- ⑥【大学:IRの各種アセスメント分析】
 - ・アセスメント結果の迅速な集計と分析を行い、各種部門へフィードバックし、質向上に役立てる。
- ⑦【第5次中期目標・中期計画】
 - 進捗管理表をもとに着実に進める。なお、短大は2024年に選定された補助金事業を短大の第5次中期目標・中期計画に新たに項目として加え、進捗を確認する。
- ⑧【機関別認証評価への対応】
 - ・大学、短大ともに資格審査委員会、無期化審査委員会を適切に実施し、設置基準上の教員数を確保する。
 - ・大学の収容定員充足については、指摘学科以外も含め、検討委員会を設立し、将来的な構想を十分な議論を行い、改善する。
 - ・短大においても、定員充足を目指し、短大教職員一丸となって対応する。
- ⑨【アセスメント結果の活用】
 - 第3回内部質保証委員会にて、アセスメント結果に関する評価と改善について提案し、承認されたこと受け、大学6項目、短大6項目について、改善を進め、データに基づく意思決定を推進する。
- ⑩【学修成果の可視化】
 - 学生が成長できた実感できる、学生が何ができるようになったのかを話すことができるような成長を可視化するシステムの導入を検討する。

4. 改善に向けての具体的な計画(Plan)

- ①【部門別自己点検年次評価報告書】
 - 2025年度作成(2024年度版)より、データ編を充実させ、入学定員充足率、収容定員充足率などを示し、各学科で経営・財政の安定性の確認、教育資源の適切な運用ができていないか、自己点検を可能にする。また、各学科のシートに専門科目アセスメントポリシーとの連動した資格・検定の取得状況を加えることで、各学科の成績評価以外の能力評価の点検を可能にする。
- ②【短大:外部評価委員会】
 - ・高大連携に向けた懇談会:引き続き、連携を深める懇談会を企画し、より多くの情報を収集して、教育へのフィードバックを行う。
 - ・企業との懇談会:開催日程が内定式前という繁忙期であったため、参加企業数が減少した要因から、2025年度は開催日程を再検討する。また、懇談会での意見を教育課程や教育方法に反映させ、効果的に活用する。
 - ・外部評価委員会:議論の活性化のため、委員の構成、委員数の増員を検討する。
- ③【大学:外部・学生評価委員会】
 - ・報告書の作成に加え、提案事項についてエビデンスとともに関連部門へのフィードバックを行い、質向上に活用する。また、執行部へは分析結果のフィードバック、肯定的な声や高評価の共有、課題の共有を行い、エビデンスに基づく意思決定を促進する。
 - ・外部評価委員会:9月には第3期構成員へ依頼状の発送を完了する。
 - ・学生評価委員会:11月中には構成員が確定するよう準備する。また、テーマ策定・アンケート実施など委員会準備や事後処理を早める。
- ④【大学:新3方針の策定】
 - ・各学科DP:2025年の春学期中に全学科のDP案を共有、12月には確定版の周知を進め、規程改正の準備を進める。
 - ・全学DP:2025年度の早期に執行部で審議し、全学で共有後に規程改正を行う。
 - ・アセスメントポリシーの見直しを行う。
- ⑤【短大:新3方針の策定】(第5次中期目標・中期計画/Ⅰ.教育/1.Visionの明確化と教育課程の再編)
 - ・各学科の新3方針を決定する。
 - ・学修成果の評価方法(アセスメントポリシー)の具体的評価方法を決定する。
- ⑥【大学:IRの各種アセスメント分析】
 - ・GPS-AcademicのAP点検活用を進める。
 - ・執行部へ分析結果のフィードバック、肯定的な声や高評価の共有、課題の共有を行い、エビデンスに基づく意思決定を促進する。
 - ・AP点検及び入学前教育の点検方法を検討する
- ⑦【第5次中期目標・中期計画】
 - 策定した計画のもと、タスクフォースで着実に進める。なお、短大は2024年に選定された補助金事業を短大の第5次中期目標・中期計画に新たに項目として加え、進捗を確認する。
- ⑧【機関別認証評価への対応】
 - ・引き続き、教員数については短大も含め、計画的に人材を採用・配置・育成・評価し、資格審査委員会で随時対応する。
 - ・大学は、3つの分科会、4つの作業部会で改組等を着実に進める。
- ⑨【アセスメント結果の活用】
 - 各項目(大学6項目、短大6項目)の具体策を学部長等会議、教授会等にて各学科で共有するとともに改善状況を随時確認する。
- ⑩【学修成果の可視化】
 - 学修成果の可視化にあたり、他大学の事例やシステムについて情報収集を行い、本学にとって適切な活用できるシステムを検討する。

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価	評価シート7	組織名称（評価单位名称）	委員会・センター
カテゴリー	FD活動（新宿キャンパス）、全学FD研修会		
担当委員会・センター（構成員数）	FD実施委員会		
担当部署	大学企画室、高等教育教育研究所		
記載責任者（役職）	今野裕之 大学新宿キャンパスFD実施委員長/高等教育教育研究所所長、 小松由美 短期大学部FD実施委員長		
会議概要（実績回数）	FD・SD推進委員会（2回）/キャンパス合同FD実施委員会（1回）		
添付エビデンス	「目白大学新宿キャンパス各種委員会規程」、「目白大学短期大学部各種委員会規程」、「目白大学・目白大学短期大学部FD・SD推進委員会規程」 2024年度第1・2回FDSD推進委員会資料、2024年度 第1回全学FD研修会実施概要、2024年度 第1回全学FD研修会報告、2024年度 第2回全学FD研修会実施概要、2024年度 第2回全学FD研修会報告、2024年度FD実施委員会（キャンパス合同）議事概要、目白大学・目白大学短期大学部 FD活動の目標、2024年度「FD活動実施計画書」一覧、2024年度「FD活動実施報告書」		

項目	2023年度 自己点検評価
事業内容	課題と2024年度の改善目標（Action）
	①【全学FD研修】高い参加率を保ちつつ、教育力の向上・研究活動の活性化のため、全学FD研修内容を充実させる。
	②【部門別FD研修】引き続き、各学部学科の特色を生かした教育・研究の質の向上を図るため、部門別FD活動を推進する。
	③【新任者SD】新任者が本学の理解を向上させスムーズな業務遂行を行うため、新任者SDの充実を図る。
	④【FDSD推進委員会】教育活動の活性化のため、TA/SAのFDを検討する。
事業内容	改善に向けての具体的な計画（Plan）
	①【全学FD研修】全学FD研修を引き続き開催する。なお、第2回全学FD研修のテーマは「AI・データサイエンス教育」とした。
	②【部門別FD研修】部門別FD研修では2024年度FD研修にあたり「授業のねらいの明確化」や「ルーブリック評価」等の学修成果をテーマに取り上げるよう依頼した。
	③【新任者SD】年度末の多忙な時期ではあるが、新任者SD研修の内容を更に充実させるため、両キャンパスの教務課の協力を得る。
	④【FDSD推進委員会】新しいFDとして、TA/SAのFDを動画で行えないか、高等教育研究所で検討を開始する。

項目	2024年度 自己点検評価 ※箇条書きにて記入
事業内容	1. 取組状況（Do）
	①【全学FD研修】第一回全学FD研修（9月）のFD（コンプライアンスはSD）は例年通りのプログラムで行った。第二回全学FD研修（2月）はテーマを「AI・データサイエンス教育とこれからの高等教育」として、竹内光悦教授（実践女子大学人間学部長）による講演と、目白研心高校の教員による「高等学校での情報科目の現況」と情報教育センター教員による「AI・データサイエンス教育と目白大学の取組」をオンデマンド動画で配信した。
	②【部門別FD研修】2024年度は、各学科で「授業のねらいの明確化」や「ルーブリック評価」等の学修成果についてのFDをテーマに設定し、各部門で主体的に研修を行った。
	③【新任者SD】2025年3月29日に新任者29名（31名中）が参加した研修を行った。
	④【FDSD推進委員会】TA/SAの研修については、高等教育研究所より、「TASAハンドブック」を増刷し再度配布しが、研修の検討には至らなかった。
事業内容	⑤【短期大学部FD】研究交流会は、12月4日に「ディプロマポリシー、学修成果の検証」をワークショップ型で開催した。また、教授会後のFD研修会では、9月から3回にわたり教員6名が大学設置基準や認証評価について発表した。
	2. 点検・評価（Check）
	①【全学FD研修】9月のFD（コンプライアンスはSD）は参加率100%であった。また、事後アンケート調査回答の満足度（「とても満足」「満足」）では、「コンプライアンス研修」、「研究倫理教育」の96.6%、「研究成果報告」は94.6%であり、高い評価を得た。中でも、科学技術振興機構（JST）による研究倫理教育の映像教材、長期研修制度の研修者の報告が好評であった。2月全学FD研修会は95.0%の参加率であり、また、事後アンケート調査回答の満足度（「とても満足」「満足」）では、第一部講演会の満足度は91.6%、第二部のオンデマンド研修は93.3%という高い満足度であった。
	②【部門別FD研修】学部、学科、研究科のFD活動はそれぞれ全部門で行い、様々なテーマを設定し、教育改善や研究力向上を推進した。なお、今回テーマとして提示した、授業の狙いの明確化を取り上げた学科は1学科、ルーブリック評価を取り上げた学科が5学科であった。（短大含める）
	③【新任者SD】2024年度は午後の大学パートを充実させ、教務事項の説明を加え、スムーズな授業開始を図った。（なお、教務事項の説明はキャンパス別に行い、岩槻キャンパスは後日、さいたま岩槻キャンパス内で行った）
事業内容	④【FDSD推進委員会】TA/SAは、第5次中期目標・中期計画/Ⅰ.教育/2.学修者本位教育/③特性に応じた学修・学生支援にて計画され、さいたま岩槻キャンパスで試験的にプロジェクトがスタートしたため、FDSD推進委員会での検討は一旦停止することとした。
	⑤【短期大学部FD】教授会後に開催しているFD研修会では大学・短期大学基準協会の機関別認証評価受審に向けて教員全員で理解を深める機会となった。授業評価アンケートの結果は教授会で報告するとともに、自由記述から得られた内容は教育懇談会（2月開催、非常勤講師も参加）でも共有した。
	3. 課題と次年度の改善目標（Action）
	①【全学FD研修】高い参加率を保ちつつ、教育力の向上・研究活動の活性化のため、全学FD研修内容を充実させる。
	②【部門別FD研修】引き続き、各学部学科の特色を生かした教育・研究の質の向上を図るため、部門別FD活動を推進する。なお、2025年度はFD活動の実質化を推進する。
	③【新任者SD】引き続き、新任者が本学の理解を向上させスムーズな業務遂行を行うため、更なる充実を図る。
	④【短期大学部FD】学生による授業評価で高い評価を得た教員が実践している工夫や実践事例の共有を行う。

4. 改善に向けての具体的な計画(Plan)

- ①【全学FD研修】高い参加率を保ちつつ、教育力の向上・研究活動の活性化のため、全学FD研修内容を充実させる。
- ②【部門別FD研修】2025年度のFDテーマを、第5次中期目標・中期計画の内容に即したテーマとし、加えて、大学は「新DPの達成度をどう測るか」、「学科専門科目に文理融合型問題解決学習をどのように導入するか」等、短大は「学生の学習意欲のボトムアップに繋がるポートフォリオの見直し」、「メジプロの効果測定とGPAの相関分析」、「学生主体の学びとなる授業展開の手法」とした。また、学科等のFD活動報告書を2025年度内に回収し、優れた取り組みに関して、2025年度に全学FD研修、学部長等会議、教授会等で共有することを計画する。
- ③【新任者SD】研修内で懇談の時間を設け、新任者の不安を払拭する研修が可能か、検討する。
- ④【短期大学部FD】9月と10月の教授会終了後のFD研修会において、学生による授業評価で高い評価を得た教員から事例報告をし、教授法のスキルアップに繋げる。

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価	評価シート7	組織名称（評価单位名称）	委員会・センター
カテゴリ	教務支援		
担当委員会・センター（構成員数）	教務委員会（大学：26名、短大：3名）		
担当部署	大学事務局新宿キャンパス教務部教務課		
記載責任者（役職）	雪吹 誠（学務部長（教務担当））、堀 崇一郎（教務部長）		
会議概要（実績回数）	11回		
添付エビデンス	①「遠隔授業について」→ 2024年度遠隔授業一覧（全て遠隔、主として遠隔、主として対面）、 ②「SchooSwingについて」→ モデル授業についてのインタビュー（鷺谷先生、藤巻先生）、2024年度SchooSwingプロジェクト成果報告資料 ③「出欠アラートについて」→ アラートシステム運用について		

項目	2023年度 自己点検評価
事業内容	課題と2024年度の改善目標（Action） ① 遠隔授業について ・共通科目内の総合科目については、遠隔授業（オンデマンド型）が定着してきた。さらに専門教育科目も導入に向けて検討を進めていく。 ② SchooSwingについて ・オンデマンド型授業での利用は増えてきたが、BYODに対応した対面授業での利用が進んでいない。 ③ アラートシステムについて ・2022年度秋学期より退学防止の観点より導入したが、全科目が対象となっていたためアラートの回数が多くなりすぎてしまい、教員・学生共に対応に追われるケースが散見された。
	改善に向けての具体的な計画（Plan） ① 遠隔授業について ・専門教育科目については、オンデマンド型でも十分教育効果が得られる科目の授業実施方法を検討していく。 ・対面授業とオンデマンド型を組み合わせた授業やクォーターで完結する授業での教育効果を検証していく。 ② SchooSwingについて ・システムを利用しての授業（対面・遠隔・ハイフレックス）のモデルを公開し、教員の利用実績を高めていく。2024年度はSchooSwingを全ての授業で使用し、BYOD化に対応する。 ③ アラートシステムについて ・アラート対象科目の見直しを行い、1・2年次の必修科目とする。 ・アラート算出の期間や条件の見直しを行う。

項目	2024年度 自己点検評価 ※箇条書きにて記入
事業内容	1. 取組状況（Do） ① 遠隔授業について ・2024年度専門教育科目のオンデマンド型授業（授業実施形態：主として遠隔を含む）は、学科からの申請により43科目となった。 ・2024年度はクォーター授業（週2回実施、8週で完結）のモデルを作成する予定であったが、履修者が少なかったために対象の科目が閉講となった。 ② SchooSwingについて ・対面授業時の活用方法について、2件のモデル（鷺谷先生、藤巻先生）をインタビュー記事として全教員に共有した。 ③ アラートシステムについて ・必修科目だけに科目を絞り、授業1週目からアラートを発動することにより、欠席の多い学生を担当等へ迅速に知らせることができた。 ・アラート発動により担任は早急に学生とコンタクトを取ることができた。
	2. 点検・評価（Check） ① 遠隔授業について ・専門教育科目のオンデマンド型授業は定着してきている。講義科目で知識を定着させることを主眼に置いている授業は、オンデマンド型授業に変更することにより学修効果があるか検証が必要である。 ・クォーターによる対面と遠隔を組み合わせた授業を展開することにより、授業の理解度や定着度を測りたかったが、閉講となってしまったため次年度への持ち越しとなる。 ② SchooSwingについて ・BYODに対応したSchooSwingを活用するモデル授業を提示することができた。 ・授業全体数に対しての活用授業割合は、前年度に比べ約11%増（31%→42%）であった。 ・種別ごとのコンテンツでは、前年度よりも、PDFの利用が2351件増、オンデマンド動画が1248件増、確認テスト628件増であった。 ③ アラートシステムについて ・1・2年生に多い必修科目に設定することにより、対応が必要な学生を的確に把握することができた。また、必修科目のため1週目からのアラート発動が可能となった。 ・週間欠席率を2週間欠席率に変更し、煩雑にアラートが発動することを防ぐことによりアラートの信憑性を高められた。
	3. 課題と次年度の改善目標（Action） ① 遠隔授業について ・2025年度はクォーター授業（対面と遠隔を組み合わせ、週2回実施、8週で完結）を1科目開講する。また、教務委員に周知し、他の科目においても導入可能か検討していく。 ② SchooSwingについて ・休講時の補講においてSchooSwingを利用してのオンデマンド配信は定着してきている。一方で対面授業時のSchooSwingの活用が教員に浸透していない状況を改善する。 ③ 遠隔授業（総合科目）の配信及び課題提出の曜日時間について ・2023年度より課題配信を金曜日8時、課題提出締め切り火曜日21時での運用を行ってきた。学生より5限終了してから自宅に帰る時間が21時をすぎるため22時締め切りの声があり、再度曜日時間について検討課題となった。

4. 改善に向けての具体的な計画(Plan)

- ① 遠隔授業について
 - ・クォーター授業での学生の理解度等を測り、結果が良ければ他の授業においても、クォーター授業(週2回実施、8週で完結)を積極的に導入していく。
- ② SchooSwingについて
 - ・操作について説明会を開催し、SchooSwingの利用者数を増やす。※2024年度利用教員数:全担当教員数(専任・非常勤)576名中、378名利用、利用率66%
 - ・SchooSwingの利用してのモデル授業を教員に提供する。
- ③ 遠隔授業(総合科目)の配信及び課題提出の曜日時間について
 - ・学生の課題に取り組む時間を確保するため、1日早めて木曜日の配信を議論した。
 - ・提出締め切り時間が22時であると、教員が勤務時間外での対応が増えることから、現状の21時で据え置きとの意見交換を行った。

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価	評価シート7	組織名称（評価单位名称）	委員会・センター
カテゴリー	学生支援（厚生補導）		
担当委員会・センター（構成員数）	学生委員会（18名） ※事務局職員を除く		
担当部署	大学事務局新宿キャンパス学生部学生課		
記載責任者（役職）	長崎俊秀（学務部長学生担当）、高橋寛（学生部長）		
会議概要（実績回数）	10回		
添付エビデンス	学部長等会議議事概要、学生委員会議事概要、大学Webサイト、特定支援団体運営委員会資料、桐光会総会及び奨学委員会資料、学生相談室連絡会議資料		

項目	2023年度 自己点検評価
事業内容	課題と2024年度の改善目標（Action） ① 新【課外活動の活性化】 学生会による「課外活動の活性化のための補助事業」を実現する。 ② 【特定支援団体チアリーディング部】 2025年度入学者については、2024年度卒業予定者数6名を上回る新入部員の確保を目指す。 ③ 【学生相談室】 学生への周知活動、教職員との連携を今まで以上に強化し、大学全体としての学生支援体制を充実させる。 ④ 【新入生データ関係業務】 引続き業務効率化を進めるとともに、入試手続きのWeb化を契機として更なる業務改善を図る。 ⑤ 【桐光会奨学金】 2024年度から2025年度にかけて実施される国の修学支援新制度の拡充の動きを踏まえて、制度のあり方を検討する必要がある。 ⑥ 【桐和祭】 通常の対面開催とはなったものの入場者数が伸び悩んだ。また模擬店で小火（ぼや）が発生し、火気の取扱いについて課題を残した。
	改善に向けての具体的な計画（Plan） ① 新【課外活動の活性化】 2025年度からの実施を目指し、学生会及び学生会本部団体と連携し、要綱作成等に取り組む。 ② 【特定支援団体チアリーディング部】 チア推薦指定校への働きかけ、チア推薦の新基準の周知、類似競技経験者への声かけ等に注力する。 ③ 【学生相談室】 相談室からの情報発信（パンフレットをわかりやすく刷新するなど）を強化し、教職員との連携を積極的にはかる。 ④ 【新入生データ関係業務】 入学予定者の手続きフローを入試広報部と連携し整理するほか、手続きに不備があった学生への学生証交付手順等をより効率化する。 ⑤ 【桐光会奨学金】 国の修学支援新制度の拡充による影響を見極めながら、奨学金拡充の要否等について議論を行う。 ⑥ 【桐和祭】 開催コンセプトの明確化、本部企画の充実、広報活動の強化等を通じて来場者数の大幅増（目標8,000人）を目指す。火気取扱については、出展団体への事前指導と当日の巡回等を徹底し、再発防止を図る。

項目	2024年度 自己点検評価 ※箇条書きにて記入
事業内容	1. 取組状況（Do） ① 【課外活動の活性化】 2024年6月までに制度（「課外活動活性化のための補助事業」）を整え7月から募集を開始した。応募があった7件すべてが採用された。 ② 【特定支援団体チアリーディング部】 入試広報部と連携し、指定校への働きかけ、見学者への対応、Webサイトでの発信等を強化し、新入部員確保に努めた。 ③ 【学生相談室】 学生が相談室をより身近に感じ、アクセスしやすいようにパンフレットを改訂した。FD研修を依頼された学科に研修を行った。 ④ 【新入生データ関係業務】 サイト公開後の大幅更新、修正等は無く、新規導入の学生証交付手続き（学生のスマホに引換証を表示）についても予定通り運用できた。 ⑤ 【桐光会奨学金】 修学支援新制度の充実により応募が激減する中、それに対応した制度改正の議論を深めることができなかった。 ⑥ 【桐和祭】 学務部長・学生課と実行委員会が連携し、開催テーマの具現化、企画の充実、地域との連携等を図るとともに、衛生管理及び火気管理等の徹底を図った。
	2. 点検・評価（Check） ① 【課外活動の活性化】 年度内に募集を開始し、スポーツ、調査研究、サークル設立等、幅広い分野で質の高い応募があった。 ② 【特定支援団体チアリーディング部】 新入部員について目標の6名の確保には至らなかったが、1年生5名が入部した。 ③ 【学生相談室】 2023年度の全学科FD研修から2024年度も教職員との連携が強化され、教職員連携が645件（前年度347件）に増加した。 ④ 【新入生データ関係業務】 WEBサイト上の案内は改善され、学生証交付手続きも受付対応及び学生の反応等に問題はなく、不備学生への対応も早期に完了した。 ⑤ 【桐光会奨学金】 桐光会による修学支援について奨学金に限定しない広範な議論が必要な段階にある。 ⑥ 【桐和祭】 来場者数は目標の8,000人に届かなかったものの、前回は大きく上回る7,859人（昨年度比127%）となった。また、事件事故の発生もなかった。
	3. 課題と次年度の改善目標（Action） ① 【課外活動の活性化】 予算消化率が14%であった。（予算200万円）今後、制度の周知に努め、応募企画の質の維持と利用拡大を図っていく必要がある。 ② 【特定支援団体チアリーディング部】 部員数を16名とすべく、引き続き入試広報部と連携し部員獲得に努めるとともに、オープンキャンパスでの対応を改善する。 ③ 【学生相談室】 学生の相談への敷居を下げ、困りを抱えたときの身近な相談窓口の一つとして定着していくように周知活動のさらなる充実を図る。 ④ 【新入生データ関係業務】 新たな学生証交付手続きの効果は高かったが、手順を詰め切れていなかった点で、事務側の処理負担が大きくなってしまっていた。 ⑤ 【桐光会奨学金】 修学支援新制度拡充による影響及び桐光会のあり方に関わる議論等を踏まえ、制度改正に関わる議論の深化及び予算規模の適正化を図る。 ⑥ 【桐和祭】 来場者数10,000人を目指す。特に本学学生の来場増を図ることが課題となっている。
	4. 改善に向けての具体的な計画（Plan） ① 【課外活動の活性化】 教務ポータルサイトの活用、学生委員への協力依頼、成果発表の更なる工夫等により、制度の周知と定着を図る。 ② 【特定支援団体チアリーディング部】 オープンキャンパス時に卒業生へ協力を依頼し、受験希望者へ具体的な経験談を話す機会を設け、出願に繋げる。 ③ 【学生相談室】 学生相談室便りの内容を充実させ、ホームページ掲載だけでなく、学内掲示や相談室での配布などで学生の目に留まりやすいように工夫する。 ④ 【新入生データ関係業務】 学生証交付手続きの仕組み及び作業手順の改善箇所は既に確認済であるため、年内に新たな手順を確立し安定運用を目指す。 ⑤ 【桐光会奨学金】 制度改正に向け奨学委員会での意見集約を図っていく。 ⑥ 【桐和祭】 年度当初から学生向けの広報活動を積極的に展開するとともに、認知度及び開催機運を高めるためのイベント等を開催する。

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価	評価シート7	組織名称（評価单位名称）	委員会・センター
カテゴリー	進路指導		
担当委員会・センター（構成員数）	就職・キャリア委員会(32名)		
担当部署	就職支援部		
記載責任者（役職）	牛山佳菜代学務部長（進路担当）、鈴木あ久利（就職支援部長）		
会議概要（実績回数）	2024年度就職・キャリア委員会議事概要（11回）		
添付エビデンス	2024年度就職・キャリア委員会議事概要（11回）、キャリアブック、保護者のための就職活動支援ガイド		

項目	2023年度 自己点検評価
事業内容	課題と2024年度の改善目標（Action） ① 正課授業のキャリア教育について、「キャリア研修Ⅰ・Ⅱ」及び「キャリア演習」、「仕事と社会」のつながりを重視し、更なる内容の充実を図っていく。 ② 内定率について、引き続き電話かけを6月から実施し、早い段階で教員と連携し学生の個々の情報を共有していく。 ③ 「キャリア研修Ⅰ」と「キャリア研修Ⅱ」それぞれの内容の充実を図り、学科・学年等を含め、参加者の拡大に努める。 ④ キャリアセンターは話しやすい所だという学生からの信頼を得られるように、より話しやすい環境を提供し、参加率を伸ばす。 ⑤ 就職・キャリア委員会の勉強会がとて為になったという委員が多い為、学内外の講師を適切に選出し、内容を更に充実させて実施していく。 ⑥ 正課外の講座について、参加人数を増やすために内容を精査し、学生への早めの周知を図っていく。 ⑦ 保護者対象就職説明会について、開催時期がやや遅いのではないかと意見があり、インターンシップの申込みの時期に合わせて開催時期を検討する。 ⑧ 対面で早期化しているアフターコロナの就職活動の中で、学内合同企業セミナーのあり方を再度検討する。 ⑨ 卒業生アンケートおよび企業アンケートを行う際には、検討した内容を反映して行う。また結果を適宜、学生への就活支援、保護者への対応に活かす。 ⑩ 「就職に役立つ資格・検定ガイド」の発行によって、初年度フィードバックされた意見を参考に次回発行について検討する。
	改善に向けての具体的な計画（Plan） ① 正課授業のキャリア教育について、より高い効果を得るために各科目で実施している内容の精査をしていく。 ② 電話かけをして学生の状況を掴むことと合わせて、各学科、ゼミ教員との情報連携を深め、電話かけをする件数なるべく少なくしていく。 ③ 「キャリア研修Ⅱ」の受講要件を前年度同様汎用性の高いものとし、早めに周知して広範囲の学生が履修できるようにする。 ④ 事前に職員がカウンセラーのもと研修を行うことで共通の土台作りをし、全員面談後にはアンケートを実施して学生の生の声を掴む。 ⑤ 就職・キャリア委員会の勉強会では、これまで実施してきた内容のフィードバックを行い、新たな内容を加えていく。 ⑥ 正課外の講座について、参加人数を増やすための方策として大きいのは教員に声がけをしてもらう事であり、そこを強化していく。 ⑦ 保護者対象就職説明会について、昨今の早期化に呼応し、大学生の保護者対象説明会を3か月早め、6月に実施することとする。 ⑧ 学内合同企業セミナーへの参加人数の直近の比較により、来年度以降の開催方法や対策を要するかどうかを含めて検討する。 ⑨ 卒業生アンケートおよび企業アンケートの実施に際して、まずは多くのデータが得られるよう、回収率を上げる努力や工夫をする。 ⑩ 「就職に役立つ資格・検定ガイド」について、キャリア関係科目や保護者対象就職説明会での配付後、学生・保護者・教職員からの意見等につき、記録しておく。

項目	2024年度 自己点検評価 ※箇条書きにて記入
1. 取組状況（Do）	① 正課授業のキャリア教育について更なる充実を図るべく、キャリアデザイン各科目の内容を精査し、キャリア教育プログラムおよびカリキュラム構成を見直し、精査した。 ② 電話かけを求人の早期化に合わせて早めの6月から行い、進路不明者や未内定者の状況について適宜委員を通じて学科と共有し、最終的な確認作業を減らすことができた。 ③ 「キャリア研修Ⅰ」と「キャリア研修Ⅱ」をキャリア教育・キャリア支援を専門とする運営団体と連携して行い、それぞれ違った物差しや角度により学生が社会や企業について考え、実践する機会を与えた。 ④ 全員面談では、キャリアセンターでカウンセラーが対応する職員に対して事前研修を行い、問題を共有するとともに学生にとって話しやすい環境づくりに務めた。 ⑤ 就職・キャリア委員会における勉強会では、これまで定例の各学科事例報告から、新たに委員にアンケートを取って内容を検討し、ふさわしい人選を行って実施し、委員全員が参加した。 ⑥ ガイダンスや講座は、学生向けに配信しながら月次の就職・キャリア委員会でも説明し、委員会Teamsにチラシを置き、委員からも周知を依頼している。 ⑦ 大学生対象保護者対象就職説明会について、開催日を前倒して6月の実施とし、早まる就職活動の詳細について保護者に説明するとともに、理解と協力を促した。 ⑧ 学内企業合同セミナーの開催方法や日程、参加企業について改めて検討し、これまでのやり方にとらわれずに広く意見を募った。 ⑨ 卒業生アンケートは高等教育研究所と連携して項目を検討し、回答数170件（回答率14.6%）および企業アンケートは、回答率108件（26.1%）となり、就職・キャリア委員会で報告し、HPIに掲載した。 ⑩ 新しく「就職に役立つ資格・検定ガイド」を作成し、新宿キャンパスの全学生および就活を行う学部3年の保護者に配布し、授業や講座等でも周知した。

事業内容	2. 点検・評価 (Check)
	① キャリア教育科目について「キャリア教育」と「キャリア支援」とに方向性を分け、2026年度の実施に向けたキャリア教育に関する再編案を作成し、検討している。 ② 6月からの電話かけを継続し、適宜卒業式間際まで行うことにより、都度アドバイスを行って就職支援に繋ぎ、昨年度よりも高い98.8%の就職率に繋がった。 ③ 「キャリア研修Ⅱ」では、初めて大手製造小売会社の店長講話と店舗見学を実施し、SDGsや脱炭素社会を考える一端を与え「キャリア研修Ⅰ」とともに定員を充足した。 ④ 昨年度を超えて89.2%の学生が全員面談に参加したことで、個人の状況を把握し、就職活動に苦労しそうな学生をあらかじめピックアップすることに繋がった。 ⑤ 委員のニーズに合わせて、「インターンシップの活用方法、企業人事担当者からの情報提供」「キャリア教育について」「ゼミ生への就活指導のあり方」の勉強会を実施した。 ⑥ 必要としている学生に見合った支援が届くよう学内で連携をとり、配慮申請がされている学生には、自宅に「支援を必要とする学生向けの講座」案内を送付した。 ⑦ 今回の開催時期については、「ちょうどよい」が76.2%、「もう少し早い方がよい」が22.0%と、6月に早めたことについては、概ね好意的なアンケート結果であった。 ⑧ 学内企業合同セミナーは1月に対面形式で6社、2月に遠隔形式で54社の二本立で行い、学生が参加しやすい方式で、できるだけ多く参加できるようにした。 ⑨ 卒業生アンケートにより、学生時代にもっと取り組みばよかったことの上位がパソコンと資格取得であったことから、資格に関するガイドの作成に繋がった。 ⑩ 「就職に役立つ資格・検定ガイド」を作成したことは、学生の資格についての認識と取得意欲のアップに貢献し、資格奨励金受給者数が前年よりも増えた。また短大奨励金制度の見直しを行った。
	3. 課題と次年度の改善目標 (Action)
	① キャリア教育プログラムが、キャリア教育専任教員、非常勤教員、キャリア委員、就職支援部との連携のもと、より高い効果を得られるよう実践していく。 ② 就職活動の早期化に合わせ、電話かけを5月からとさらに早めて実施し、早い段階から就職支援部、キャリア教員と連携しつつ、学生の個々の情報を共有していく。 ③ 「キャリア研修Ⅱ」の受講要件を「キャリア研修Ⅰ」同様に柔軟に検討し、「キャリア研修Ⅰ」からのスムーズな受け皿とする。 ④ 学生から見て、キャリアセンターが入りにくい場所というイメージへの障壁を減らせるよう、より学生が話しやすい環境を提供しながら、ガイダンスと全員面談への参加率を伸ばす。 ⑤ 就職・キャリア委員会の勉強会が、更に実践的で役立つものとなるよう、内容・やり方・時期の検討を行い、内容を充実させて実施していく。 ⑥ 年間を通して行っているガイダンスや講座については、学生からのニーズに鑑みて実施できるよう精査し、適宜アンケートやフィードバックを行い、吟味して実施する。 ⑦ 大学生対象保護者対象就職説明会について、早めた開催時期が今年も適当であるかどうか、また内容が保護者にとって満足のいくものとなっているかどうかを検討する。 ⑧ 学内合同企業セミナーでは、学生にとってより魅力的な企業に多く学内合同企業セミナーに参加してもらえるよう、企業選びについて検討し、声がけを行う。 ⑨ これまでの卒業生アンケートおよび企業アンケートの結果を俯瞰し、学生への就活支援、保護者への対応に活かす。 ⑩ 資格取得を奨励する「就職に役立つ資格・検定ガイド」について、内容・今後の発行頻度・配布対象・配布するタイミングについて検討する。
	4. 改善に向けての具体的な計画 (Plan)
	① キャリア教育プログラムの基本方針およびカリキュラム構成について、全体方針と合わせて見直しを行い、学生や関係者に周知し運営していく。 ② 電話かけをして学生の状況を掴むと同時に、キャリア委員、各学科のゼミ教員との情報連携を深め、最終的な電話かけをする件数をなるべく少なくしていく。 ③ 「キャリア研修Ⅰ」と「キャリア研修Ⅱ」への学生満足度を上げ、参加学生が研修期間の己の変化や成長に気づけるよう、研修前後でアンケートを実施する。 ④ 全員面談の機会をその後にも有効に活かせるよう、面談時のアンケートや配布物を検討し、必要な学生にはその後のフォローに繋げていく。 ⑤ 勉強会への講師やテーマについて、これまで実施してきた内容の検討を行い、委員のアンケートなどを通じて新たな内容を加えていく。 ⑥ ガイダンスや講座情報については、必要としている人へ適切な支援が届けられるよう、ツールや機会、タイミング等を工夫して学生への周知を図っていく。 ⑦ 保護者からの意見を汲むためにアンケートを回収し、その結果を見直し、次回以降に改善できるところは就職支援部内、委員会で共有して申し送る。 ⑧ 卒業生を多く受け入れている企業について、その良さが参加学生に伝わるよう学内企業合同セミナーの規模を小さく、回数を増やすなど、より個に寄り添ったセミナーを検討する。 ⑨ 卒業生アンケートおよび企業アンケート全体について引き続きIRと連携して進め、今後行う際により多くの声が得られるよう、気を付けるべき点について共有しておく。 ⑩ 資格取得へのモチベーションに繋がる「資格奨励金制度」について大学部分の精査、検討を行い、必要があれば提案していく。

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価	評価シート7	組織名称(評価单位名称)	委員会・センター
カテゴリー	学生募集		
担当委員会・センター(構成員数)	入学センター(14名)／新宿キャンパス入試広報委員会(28名)		
担当部署	大学事務局新宿キャンパス入試広報部		
記載責任者(役職)	太原 孝英(入学センター運営委員会委員長)／鷲谷 正史(入試広報委員会委員長)		
会議概要(実績回数)	入学センター運営委員会(9回)、入試広報委員会(9回)		
添付エビデンス	入学案内、各種募集要項		

項目	2023年度 自己点検評価
事業内容	課題と2024年度の改善目標(Action) ①【募集活動】2023年度は、入試システムの導入に伴い、入試担当が関連する業務に従事したため高校訪問、進学ガイダンスのマンパワーが限られることとなったが、業務を調整しながら極力参加するように努めた。高校訪問、進学ガイダンスは高校教員、受験生の重要な情報源であるため、2024年度は入試担当が外出しやすい環境づくりを行い業務効率化を推進する。 ②【入学者選抜日程】2024年度の日程を踏襲する。 ③【年内選抜(総合・推薦)】総合型選抜及び学校推薦型選抜による入学者を2024年度以上に確保するため、学校推薦型選抜の出願要件を各学科と検討し、高校ランク別に評定平均値をきめ細かく設定した。 ④【一般選抜】受験生に併願校として選んでもらうため、③と同様にこまめな情報提供を行う。また、前期日程の入学者数は大きな割合を占めるため、入学者数の確保と偏差値の維持を視野に入れながら慎重に可否判定を行う。 ⑤【OC】2023年度の受験生来場者数(大学:5183人、短大:549人)を超えることを目指す。また、「WebOC」ページなどWebコンテンツを充実させる。 ⑥【HP(受験生応援サイト)】本学HPの受験生応援サイトに、2022年度に充実させたコンテンツを活かし、受験生の動向に即したプログラムを随時発信する。オープンキャンパスへ来場できなかった受験生にむけて、Web上で必要な情報を提供することに注力する。 ⑦【制作物(紙)】受験生等の本学への志望度、出願へのモチベーションアップにつなげられる制作物を旨とする。 ⑧【広告】受験生が利用する進学情報サイト(リクルート、マイナビ、ベネッセ等)を活用し、効率的に本学の受験生応援サイトに誘導する環境作りを継続する。広告掲出後の本学ホームページへのアクセス・イベント参加・出願などの数値を計測し、対象となるターゲットにむけてWEB広告を発信する。 改善に向けての具体的な計画(Plan) ①【募集活動】高校訪問は、引き続き首都圏を中心に行なう。また、首都圏以外の地域については、全学部統一選抜の学外会場の周辺地域を優先して展開する。 ②【入学者選抜日程】2025年度入学者選抜の日程(2023年度中に審議・決定)について、年内入試は2024年度入学者選抜を基に日程を組んだうえで、総合型選抜A・C日程は志願者との面接を行って選考することとした。一般選抜は受験生が併願しやすい日程を検討し調整を図る。 ③【年内選抜(総合・推薦)】総合型選抜、学校推薦型選抜の志望者は、直接キャンパスへ足を運ぶことで志望度が高くなる傾向にある。そのため、高校訪問、進学ガイダンスにおける説明やWeb媒体やSNSからホームページへの誘導を図り、オープンキャンパスの来場者増を目指す。 ④【一般選抜】一般選抜の志望者は、進学ガイダンスにおける説明、受験媒体やHPの情報から志望校を検討し、高校教員と相談して併願校を決定している。そのため、受験生の情報収集の行動から漏れないように、高校や塾への訪問、進学情報サイト、WebDM、SNS等を中心とした情報発信を行い、併願の志願者を増やす。 ⑤【OC】オープンキャンパス来場者の出願率を高めるため、各学科のアピールポイントが出し易いプログラムや受験生と在学生の接点が多くなるようなプログラムを実施する。来場者には、SNSを活用し、定期的に情報を提供する。 ⑥【HP(受験生応援サイト)】サイトトップページから、オープンキャンパスや学科イベントの申込ページまで、受験生応援サイトの導線の利便性を高める。また、当サイトに長く滞在してもらうため、コンテンツの内容を充実させる。 ⑦【制作物(紙)】Web媒体とのバランスをとりつつ、それぞれの特長を生かしながら制作する。 ⑧【広告】進学アクセスオンライン、Studyplus Marketing PlatformやGoogleアナリティクス4等のWeb分析システムのデータを活用し、より効果がある媒体広告の選定と展開を行う。

項目	2024年度 自己点検評価 ※箇条書きにて記入
1. 取組状況(Do)	①【募集活動】高校訪問及び進学ガイダンスは、首都圏の入学実績校を中心に岩槻入試課と協働して積極的に行った。高校訪問:1764件(前年比:114%)、進学ガイダンス:410件(前年比:168%)。新規開拓として、北海道や東北のエリアをターゲットとして高校訪問、ガイダンス参加を行った。 ②【入学者選抜日程】年内入試は、各学科の前年度入学実績を踏まえて日程を配置した。(総合A:9/22、総合B:10/13、推薦:11/17、総合C:12/15)子ども学科(総合型選抜B日程を追加)と韓国語学科(公募後期から総合型選抜C日程を追加)が2024年度入試から日程を追加・変更した。一般選抜は、2024年度入試と同じ時期(1/31、2/4、2/21、3/7)に配置した。 ③【年内選抜(総合・推薦)】総合型選抜、学校推薦型選抜の志望者は、直接キャンパスへ足を運ぶことで志望度が高くなる傾向にあるため、Web媒体等からホームページへの誘導を図り、高校訪問、進学ガイダンスにおいて高校教員や受験生に対してオープンキャンパスへの参加を促した。 ④【一般選抜】中期・後期日程の受験者数の減少を見込み、前期日程(特に、全学部統一選抜・一般選抜A日程)による確保を目指した。また、可否判定において、IRから提供された入学後のGPAに関する資料を活用した。 ⑤【OC】オープンキャンパスは、従来の4月、6月、7月、8月(2日間)、9月の計6回に加え、12月に開催した。来場を促進する広報として、高校訪問やガイダンスにおける告知、Web広告の活用など、受験生のニーズに寄り添った情報発信を行った。当日は、学科説明や模擬授業のほか、学科紹介ブースの展示方法や教員や学生とのコミュニケーションの機会を増やした。また、来場者が楽しみながら大学を知る機会を提供するため、学生団体(チャリティーデング部、桐和祭実行委員、学生会、SPISチャレンジ等)の協力を仰いだ。 ⑥【HP(受験生応援サイト)】WEB媒体から流入してくることを想定し、本学を多角的に理解できるようにコンテンツを充実させた。(「学問ラボ」→先生の専門分野や日常生活で役立つ情報をわかりやすく紹介、「ゼミNavi!」→ゼミの学びや雰囲気、先生を紹介、「MEJINAVI」→一般選抜の出願者、本学合格者又は次年度に受験を検討している接触初期の受験生をターゲットとして、本学の魅力を分かりやすく表現し、入学手続きの促進および本学への志望度向上を図る) ⑦【制作物(紙)】＜入学案内＞本学の学びの取組や特長を学生インタビューを通じて紹介するなど、分かりやすい紙面づくりを行った。また、インデックスを集約してページ数をスリム化した。＜OCチラシ＞各時期の告知内容に併せて制作した。 ⑧【広告】Web広告媒体からの本学HPへのアクセスを強化する中で、Web分析ツールを複数用いて、サイト遷移・イベント来場・出願へのアクセス解析を行い、より効果がある企画の選定と掲載時期の検討に注力した。

2. 点検・評価 (Check)

- ①【募集活動】(高校訪問及びガイダンスの選定)前年度までの入学実績を踏まえて訪問し、首都圏を中心とした高校教員との信頼関係の維持及び構築に努めた。
(ガイダンス)学科の特長やオープンキャンパスの内容を説明し、オープンキャンパスへの来場を促した。
高校訪問及びガイダンスの取組により、オープンキャンパス(新宿)への参加を動機づけることができ、来場者数が前年を上回った。(来場者数前年比:117%)
- ②【入学者選抜日程】年内入試(新宿)の日程は、総合型選抜、学校推薦型選抜とも前年度の出願者数を上回った。(総合:122%、推薦:100%)また、一般選抜は他大学の試験日程を視野に入れて設定しており、年内入試の受験者数増加で受験者数の減少が懸念されたが、2022年度から続いていた一般選抜全日程の減少傾向に変化が見られた。(全学部統一選抜:前年比111%、一般A日程:前年比83%)また、一般B・C日程で受験者数が前年を上回った。(一般B日程:前年比114%、一般C日程:前年比107%)
- ③【年内選抜(総合・推薦)】2025年度入試(新宿)は、計画的に合格者数を絞った心理カウンセリング学科を除き、総合型選抜A・B日程では前年度と同等又は上回る入学者を確保できた。C日程は、推薦の合格発表後に出願期間を設けており、他大学の可否の影響が懸念されたが、入学者数は前年を上回った。(前年比:117%)
- ④【一般選抜】一般選抜(新宿)は、受験生の年内入試シフトの影響による志願者の減少を予想していたが、全学部統一、一般選抜B・C日程が前年度を上回った。(前年比:全学部統一112%、一般B114%、一般C107%)志望度が高い受験生が多く受験する一般Aは、前年比83%だった。
2025年度入試は、前年度より受験人口が2.7万人多かったこと、他大学の文系で年内入試による確保割合が上昇していることなどの要因により、2月上旬に実施された上位大学の一般選抜で合格が得にくくなり、中期・後期日程の受験者数が増加したものと考えられる。
- ⑤【OC】来場者数(4~9月)は、前年比117%だった。これに加え、今年度から新たに実施した12月のOCでは、3年生向けの「一般選抜対策講座」や1・2年生向けのガイダンスを実施し、277名が来場した。
オープンキャンパスの来場者数増加策として、進学情報サイト等からホームページにアクセスするまでの導線を強化し、ホームページの関連するコンテンツを拡充した。
当日は、学科説明や模擬授業で「学科の学び」を知るプログラムを実施したほか、学科紹介ブースで教員や学生とのコミュニケーションを通じて受験生が学びを理解できるように努めた。これらの取組により、前年を超える来場者の確保と来場者アンケートにおける高い満足度を得られた。(満足度:92.3%)
- ⑥【HP(受験生応援サイト)】WEB媒体による情報発信とWEB媒体からホームページへの導線を構築したことにより、アクセス数が増加した。主なページ(タイトル)の状況は次のとおり。「オープンキャンパス」のユーザー数:132,246(前年比205%)、「入学者選抜情報」ページのユーザー数:23,924(前年比:111%)となった。特に、一般選抜の歩留まり対策だった「MEJINAVI」は、新3年生にむけて発信したことにより、ユーザー数:73,912(前年比:338%)となった。
- ⑦【制作物(紙)】入学案内には、大学の取組や特長をわかりやすく掲載し、アンケートの結果、92%が「大変満足」又は「満足」と回答しており、高評価を得ることができた。また、前年度と比べて、「知りたい情報が載っている」、「キャンパスに足を運びたい」というコメントが1.3倍に増加した。紙の媒体は、資料請求者への郵送や進学ガイダンスで受験生に手渡す資料として活用した。QRコードを設置することで、Webに移行しやすい環境が向上した。
- ⑧【広告】パラメーターを用いたアクセス解析を独自で行い、各広告の効果測定を図る中で広告媒体の掲載時期・エリア・年齢等のターゲティングを細かく行えた。

3. 課題と次年度の改善目標 (Action)

- ①【募集活動】2024年度は、入試担当が担当する学内の業務と両立するため、高校の所在地や入学実績などを考慮しながら効率的に高校訪問や進学ガイダンスへの参加を行った。高校訪問及び進学ガイダンスは、高校教員、受験生の重要な情報源であるため、2025年度も引き続き入試担当が外出しやすい環境づくりと効率的な訪問先の検討を推進する。
- ②【入学者選抜日程】過去2年、入学定員を上回る入学者数を確保できた。2026年度入試はこれらの変更後3年目にあたり、2026年度入学者選抜の日程は、原則的に2025年度入試の入学者選抜日程を踏襲し、改善を要する点のみ見直しする。
- ③【年内選抜(総合・推薦)】2025年度入学者選抜に引き続き、総合型選抜及び学校推薦型選抜により入学定員の8割(新宿:884名)を超えて確保することを目指す。
- ④【一般選抜】受験生に併願校として選んでもらうため、③と同様に高校、受験媒体、受験生応援サイトなど多方面に向けて情報発信を行い、志願者確保を目指す。前期日程の入学者数は大きな割合を占めるため、入学者数の確保と偏差値の維持を両立できるよう慎重に合否判定を行う。また、中期以降の受験者数を確保するため、一般選抜B日程及び一般選抜C日程に外部英語検定試験併用型を新設する。
- ⑤【OC】2024年度の受験生来場者数(大学:4~8月)のべ6,713人)を超えることを目指す。
- ⑥【HP(受験生応援サイト)】受験生応援サイトにおいて、受験生の動向に即したプログラムを随時発信する。オープンキャンパスに参加できなかった受験生でも本学の特長が理解できるように、興味をもてる情報を発信していく。
- ⑦【制作物(紙)】受験生等が情報収集するうえで、受験生応援サイトの情報と紙の入学案内を併用している。本学の学びを効果的に発信していくため、媒体の特長を活用しながら、理解しやすく志望度アップにつなげられる制作物を目指す。
- ⑧【広告】受験生が利用する進学情報サイト(リクルート、マイナビ、ベネッセ、Studyplus等)を活用し、効率的に本学の受験生応援サイトに誘導する環境作りを継続する。広告掲出後の本学ホームページへのアクセス・イベント参加・出願などの数値を計測し、対象となるターゲットにむけてWEB広告を発信する。また、進学アクセスオンライン、Studyplus Marketing PlatformやGoogleアナリティクス4等のWeb分析システムのデータを活用し、より効果がある媒体広告の選定と展開を行う。

4. 改善に向けての具体的な計画 (Plan)

- ①【募集活動】高校訪問及び進学ガイダンスへの参加は、引き続き首都圏を中心に行う。入学者数の実績から重点校及び優先校を設定して優先的に訪問し、高校との信頼関係を一層厚くする。進学ガイダンスでは、本学の特長を伝えながらオープンキャンパスの来場を促し、前年を上回る来場者数を目指す。
- ②【入学者選抜日程】2025年度入学者選抜の受験状況等を踏まえ、2026年度入学者選抜(新宿)の日程において以下の点を見直す。①総合型選抜実施日程の追加(人間福祉学科:B日程)・廃止(韓国語学科:C日程)②募集人員割振りの変更③推薦基準(学習成績の状況<評定平均値>)等の変更④総合型選抜A日程エントリー時の提出書類の見直し⑤一般選抜B日程及び一般選抜C日程に外部英語検定試験併用型を新設⑥チャリーディング推薦型の出願資格の見直し⑦中国語学科大学入学共通テストの科目の見直し
- ③【年内選抜(総合・推薦)】総合型選抜、学校推薦型選抜の志望者は、オープンキャンパスに参加して学びを理解したうえで出願先を決める傾向にあるため、本学のオープンキャンパスへの来場を促進するとともに来場時に出席意欲が高まるようなプログラムを企画・実施する。
- ④【一般選抜】一般選抜の志望者は、進学ガイダンスにおける説明、受験媒体やHPの情報から志望校を検討しているため、受験生の選択肢から漏れないように、高校や塾への訪問、進学情報サイト、WebDM、SNS等を中心とした情報発信を行う。また、12月のOCにおいて「一般選抜対策講座」を実施し、受験を検討している受験生の志望度を高め一般選抜の志願者減少に歯止めをかける。
- ⑤【OC】開催日程は、2024年度をベースとしつつ、高3生向けの模試実施日、高校の期末考査、文化祭及び本学の試験期間を考慮して設定する。8月は2025年度と同時期開催(8月第1週目の金・土)とし、他大学との日程被り避ける。
2024年度では、各回に外部業者による進路ガイダンスや入試に直結する講座(面接講座、プレゼン講座など)がいずれも好評であったため、2025年度も継続する。さらに気軽に来られるオープンキャンパスを目指し、来場者が楽しく本学を知ることができるコンテンツを企画する。

- ⑥【HP(受験生応援サイト)】2024年度に注力したコンテンツのほか、卒業生インタビューのページを新設して、内容を充実させる。
- ⑦【制作物(紙)】Web媒体と紙の特長を生かすため、本学の概要に係る情報は紙の制作物に掲載し、情報量が多い場合や変更が生じやすい内容である場合にはWEBに掲載するなど、それぞれの特性に合わせた発信をする。
郵送費の高騰など費用が上昇傾向にあるため、制作物の質を維持しつつページをスリム化して重量を軽くするなど効果的な対策を検討する。
- ⑧【広告】受験生の資料請求やイベント参加の情報を蓄積し、本学への志願者動向を把握・管理する。
学習管理アプリに参画し、アプリ上で本学の周知及び在学生インタビューを中心にした魅力の発信する。
アクセス解析やハウスリストへのメール・LINE配信代行及びクリエイティブ作成代行を通して、受験生のニーズ・動向を把握し、本学サイトへのアクセス誘導及びイベント参加を促進する。

2024 年度 目白大学短期大学部 自己点検評価年次報告書

編集：目白大学・目白大学短期大学部内部質保証委員会（短期大学部部会）

発行：2025 年 7 月